

平成28年度 草津市スポーツ推進計画の点検・評価

基本方針1	子どもの体力向上とスポーツ活動の推進		
目標	新体カテストの成績	目標値(H32)	全国平均点を上回る

単位:点

現状値(H26)	H28	H29	H30	H31	H32
小学5年生	小学5年生	小学5年生	小学5年生	小学5年生	小学5年生
男子 53.06	男子 54.01	男子 -	男子 -	男子 -	男子 -
全国 53.91	全国 53.92	全国 -	全国 -	全国 -	全国 -
女子 53.59	女子 53.99	女子 -	女子 -	女子 -	女子 -
全国 55.01	全国 55.54	全国 -	全国 -	全国 -	全国 -

【成果・課題】

新体カテストの成績が全国平均点を下回っている小学5年生の体力向上に向けて、立命館大学スポーツ健康科学部と連携して取り組む「子どもの体力向上プロジェクト」において、体育指導者の指導力向上とともに、新たな体力向上プログラム検討し、各小学校において実践した結果、小学5年生男子の成績が全国平均点を上回った。

一方で、現状値と比較し向上傾向にあるものの、小学5年生女子の成績は全国平均点を下回っている状況にある。また、運動が好きな児童と嫌いな児童の体力差が生じている。

【今後の取組】

「子どもの体力向上プロジェクト」において、より実効性の高い体力向上プログラムを検討していくとともに、ジュニアスポーツフェスティバル等の事業を通して、運動が好きな児童を増やしていくことが必要である。

また、児童の基礎的な体力を獲得するためには、乳幼児期の早い段階からの取り組みが必要であり、認定子ども園・幼稚園・保育所、子育て支援センターをはじめとして、各関係機関や関係団体と連携し、子育てに対する親の意識の醸成を図りながら、乳幼児の様々な遊びや運動を推進していく必要がある。

基本方針2	生涯スポーツ活動の推進		
目標	成人(20歳以上)の週1回30分以上のスポーツ実施率	目標値(H32)	65%以上

単位:%

現状値(H26)	H28	H29	H30	H31	H32
54.8	50.8	-	-	-	-

【成果・課題】

市内では、ランニングとともに気軽に取り組むことができるスポーツとして、多くの人々がウォーキングに取り組んでおり、草津市スポーツ推進委員協議会による「体力づくり歩こう会」の開催をはじめ、NPO法人くさつ健・交クラブによる「ノルディックウォーク」の普及により、高齢者をはじめ、体力に自信のない人でも気軽に取り組むことができるウォーキングを推進した結果、高齢者のスポーツ実施率が高い状況にある。

しかしながら、市全体のスポーツ実施率の実績値においては、現状値より4ポイント低下しており、その要因のひとつには、比較的若い世代のスポーツ実施率が低い状況がある。

【今後の取組】

スポーツ実施率の高まりには、身近で気軽にスポーツに親しめる機会を充実させていくことが必要であり、イベント開催にあたっては、誰もがより気軽に参加できるプログラムを検討する必要がある。

また、現役の人が多く若い世代のスポーツ実施率を高めていくためには、若い世代のニーズを捉え、スポーツや運動に対する意識の醸成を図ることで、時間的に余裕がない人でも自発的にスポーツに取り組むきっかけづくりとなる事業の展開が必要である。

基本方針3	地域コミュニティによるスポーツの推進		
目標	地域スポーツクラブ設立数	目標値(H32)	8クラブ

単位:クラブ

現状値(H26)	H28	H29	H30	H31	H32
4	4	-	-	-	-

【成果・課題】
より身近な地域において、様々なスポーツができる機会や環境づくりのため、地域における各種スポーツやレクリエーション、野外活動の普及などに日ごろから取り組む草津市体育振興会連絡協議会において、地域スポーツクラブの運営に関する市内の先進地域の事例研究を行い、地域スポーツクラブの意義について認識し、機運を高めた結果、新たに市内2地域において地域スポーツクラブの設立に向けた意向が示された。
なお、地域によっては、役員の担い手が減少していることで、役員の高齢化が進み、団体の円滑な事業運営ができないこともあり、新たな取り組みを展開できない状況もある。

【今後の取組】
地域スポーツクラブの設立の意向が示された市内2地域において、地域の特色に応じて持続可能な地域スポーツクラブが設立されていくよう、各地域と連携し必要な支援を行っていく必要がある。
また、各地域においては、地域のみにとどまらず、市内のスポーツ関係団体等と連携しながら住民が事業に参画しやすい環境づくりを図ることで、事業の参加者確保はもちろんのこと、役員の担い手の育成に努めていく必要がある。

基本方針4	競技スポーツの推進		
目標	滋賀県民体育大会における草津市の総合得点	目標値(H32)	95.00点

単位:点

現状値(H26)	H28	H29	H30	H31	H32
75.00	57.00	-	-	-	-

【成果・課題】
公益社団法人草津市体育協会の運営や活動を支援し、適正な運営体制を整えた結果、市内の競技団体の統括組織として、競技団体の事業や活動に連携・協力し、その活発な活動の促進につなげることができた。
草津市の競技力の指標とした滋賀県民体育大会における草津市の総合得点は、平成28年度においては57.00点と現状値を下回っており、近年低下傾向にある。その要因のひとつには、競技種目によっては、選手の確保ができず大会へ派遣できないことがある。

【今後の取組】
市内の競技団体の活発な活動を促進するため、引き続き、公益社団法人草津市体育協会の運営や活動を支援し、適正な運営体制を維持していく必要がある。
また、競技力の向上には、選手の発掘・育成が重要となるが、発掘・育成には、専門的な知識を有する指導者の確保が必要であり、その取り組みと併せて、選手を発掘・育成できる仕組みを公益社団法人草津市体育協会をはじめとして連携し、検討していく必要がある。

基本方針5	スポーツ環境の充実		
目標	社会体育施設 ホームページアクセス数	目標値(H32)	100,000アクセス

単位:アクセス

現状値(H26)	H28	H29	H30	H31	H32
36,406	150,293	-	-	-	-

【成果・課題】

社会体育施設指定管理者である合同会社草津市スポーツ振興事業体により、社会体育施設のホームページ「草津市スポーツ情報ネット」のデザインを刷新し、SNSと連動したイベント情報や、予約情報(施設空き状況)をリアルタイムに発信した結果、ホームページアクセス数が大幅に増加し、市民のスポーツへの関心の高まりにつながった。

一方で、指導者やボランティアなどのスポーツを支える人材が不足しており、特に市内の中学校部活動においては、専門的な知識を有する指導者の不足が大きな課題となっている。

【今後の取組】

誰もが快適にスポーツに親しみ、実践するためには、ニーズに応じて様々なスポーツ情報を発信することが必要であり、引き続き、市民がスポーツ情報に触れやすい環境づくりに努めていく必要がある。

また、スポーツを実践するためには、それを支える人材の確保が必要であり、これまで活動することができなかったスポーツや、活動が停滞していたスポーツの活性化を促進するため、特に専門的な知識を有する指導者の確保・育成を図っていく必要がある。

基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価							
				実施主体	関係団体等	目標	年度	区分	計画	実績	
① 遊びを通じた運動・スポーツの充実	子どもの運動・遊び推進事業	幼児課・子ども子育て推進室	実施主体	草津市	実施計画						
			関係団体等	認定こども園、幼稚園、保育所、子育て支援センター	目標	様々な運動(遊び)を通じて、子どもの体力・運動能力の向上と、親同士や子ども同士の交流を深めるきかかけづくりにつなげる。					
			事業内容	認定こども園・幼稚園・保育所において、各園所の特色を生かした運動(遊び)の充実を図り、また子育て支援センターにおいて、遊び場の提供や親子で身体を動かすことができるイベントを開催する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			成果	各園所において、園の特色を生かした運動(遊び)を毎日実施した結果、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の向上につながった。また、子育て支援センターのイベント開催において、遊びを通じて身体を動かす楽しさを体験できるプログラムとしたことで、子どものみならず、その親も一緒に運動に楽しむことができた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続	
			課題	各園所においては、引き続き、幼児の運動(遊び)を推進していくが、園庭の規模など、限られた環境の中での活動内容を工夫していく必要がある。また、子育て支援センターのイベントにおいては一定の参加があるものの、より多くの親子に参加いただくために、計画的な広報告知が必要である。	計画	◆各園所 マラソン大会、相撲遊び等の実施 ◆子育て支援センター 各種イベントの開催	◆各園所 マラソン大会、相撲遊び等の実施 ◆子育て支援センター 各種イベントの開催	◆各園所 マラソン大会、相撲遊び等の実施 ◆子育て支援センター 各種イベントの開催	◆各園所 マラソン大会、相撲遊び等の実施 ◆子育て支援センター 各種イベントの開催	◆各園所 マラソン大会、相撲遊び等の実施 ◆子育て支援センター 各種イベントの開催	
			評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	◆各園所 ・リズム運動 6園所 ・サッカー教室 6園所 ・マラソン大会 1園所 ・相撲遊び 1園所 ◆子育て支援センター ・フリスビー「2園運動会」(10月) ・父親教室「防災運動会」(11月)				
② 親子で楽しむ運動・スポーツ機会の充実	親子で参加できる各種スポーツ教室	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体	実施計画						
			関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員協議会	目標	スポーツを通じて、親子のつながりを深めるとともに、親の子育てへの参画意識の醸成につなげる。					
			事業内容	親子で参加できる各種スポーツ教室を開催し、家族ぐるみで運動・スポーツに取り組むことができる機会の充実を図る。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			成果	親子で参加できるプログラムにより、親子がふれあう時間を持つことができた。その結果、乳幼児・児童期における運動の重要性を親に認識してもらうことができ、家庭における子育てへの広がりを見ることができた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続	
			課題	乳幼児・児童期における運動の重要性を多くの親に認識してもらうためには、教室により多くの親子に参加していただく必要があることから、参加しやすいプログラムの工夫と周知が必要である。	計画	乳幼児期対象 4教室 児童期対象 2教室	乳幼児期対象 4教室 児童期対象 2教室	乳幼児期対象 4教室 児童期対象 2教室	乳幼児期対象 4教室 児童期対象 2教室	乳幼児期対象 4教室 児童期対象 2教室	
			評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	乳幼児期対象 4教室 ・親子の体操教室(春・秋) ・親子の3B体操教室 ・幼児サッカー教室 児童期対象 2教室 ・楽しいスポーツ教室 ・ジュニアスポーツ教室				
③ 地域ぐるみで取り組む子どもの運動・スポーツ機会の充実	地域協働合校	生涯学習課	実施主体	各推進組織	実施計画						
			関係団体等	地域住民、市民サークル、老人会、企業・大学関係者 など	目標	学校・家庭・地域の協働を通じて、生涯を通じた学びや活動に関心を持つことができる機会の充実を図る。					
			事業内容	学校・家庭・地域が、それぞれの持つ教育機能を生かしながら、子どもと大人が地域文化や、現代的課題等について学び合い、かかわり合い、よろこび合い、認め合いの協働を積み重ねる社会を目指した活動を推進する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			成果	子どもと大人がスポーツに親しみながら交流を深めるため、チーム競技や身近に行うことができるダンス等に積極的に取り組んだ。その結果、体験活動を終えた後も一緒に活動するなど、継続的にスポーツに取り組もうとする姿が見られた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続	
			課題	通年で複数回にわたり取り組むクラブ活動等においては、継続的な取り組みが期待されるが、1回の体験から興味や関心を引き出し、事後にその体験を生かせる活動づくりが必要である。	計画	支援者数 200人	支援者数 205人	支援者数 210人	支援者数 215人	支援者数 220人	
			評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	支援者数 201人 ・スポーツ体験・交流活動 34回 141人 ・部活動 50回 60人				

基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価	実施計画
④ トップアスリートと連携したスポーツ機会の充実		くさつMIO夢先生事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	MIOびわこ遊覧、小学校					
				事業内容	市内の小学校においてMIOびわこ遊覧と連携した体育の授業を行い、児童とMIOびわこ遊覧の選手等のトップアスリートが交流できる機会の充実を図る。					
				成果	トップアスリートのスポーツを身近に感じ、スポーツの楽しさを児童に感じてもらうため、MIOびわこ遊覧の選手等を先生に迎え授業を行った。その結果、児童がスポーツに対する夢や希望、向き合う姿勢を考える機会となった。					
				課題	小学校カリキュラムの範囲での事業実施になることから、実施を希望する小学校のみでの開催となったことから、実施する小学校を拡大させるため、早期より事業周知を行い、カリキュラムの調整も行えるよう配慮が必要である。					
				評価	4		5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった			
				目標	児童がスポーツの楽しさや素晴らしさを身近に感じ、スポーツをしたり、好きになるきっかけづくりにつなげる。					
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続					
				計画	市内小学校 3校	市内小学校 3校	市内小学校 3校	市内小学校 3校	市内小学校 2校	
				実績	市内小学校 5校 ・志津南小学校 6年 ・草津小学校 4年～6年 ・山田小学校 6年 ・玉川小学校 3年 ・常盤小学校 5年					
① 授業内容の充実と体育指導の向上		小・中学校体力向上プロジェクト事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	小学校体育連盟、中学校体育連盟、立命館大学					
				事業内容	児童が楽しみながら、体力向上を図れるよう、ダンス教室を開催する。また、児童・生徒が意欲的に体育授業に取り組みめるよう、立命館大学と協働して授業内容の研究と充実を図るとともに、指導者の資質向上に努める。					
				成果	ダンス教室は多くの児童から好評を得ることができ、児童が楽しんで体力づくりに取り組むことができた。また、立命館大学の協力のもと新たな運動プログラムを作成し、教員に対して講習会・研修会を実施したことにより、教員の資質向上と体育授業の充実を図ることができた。					
				課題	ダンス教室の開催時期を小学校の要望である1学期とできるよう、カリキュラムの調整を行っていく必要がある。また、児童・生徒の体力向上と体育指導者の資質向上に係る取り組みが、より効果的なものとなるよう、立命館大学をはじめとした関係機関との連携を強化していく必要がある。					
				評価	4		5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった			
				目標	児童・生徒の体力向上と体育指導者の資質向上につなげる。					
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続					
				計画	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回	
				実績	ダンス教室14回(小) 体育実技講習会 1回 体育実技研修会 1回					
② 大学と連携した学校体育の充実		ジュニアスポーツフェスティバルKUSATSU	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	小学校体育連盟、立命館大学					
				事業内容	市内の小学6年生が一堂に会するスポーツイベントを立命館大学と連携して開催し、日ごろの体育授業の取組の成果を発揮する場や大学の様々な運動部と交流できる機会をつくる。					
				成果	「運動を通してすべての子どもに感動を」をテーマに、立命館大学と連携してジュニアスポーツフェスティバルを開催した。その結果、長編8の宇津比や学校対抗リレー、大学運動部のスポーツ体験を通して、児童のスポーツに対する興味や関心の高まりにつながった。					
				課題	ジュニアスポーツフェスティバルは、児童がスポーツを好きになるきっかけづくりとできる機会として、これまで児童をはじめ多方面から好評を得ているが、事業の実施にあたっては、立命館大学との連携を強化し、児童にとってより効果的な内容となるよう、プログラムの検討も必要である。					
				評価	4		5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった			
				目標	児童が様々なスポーツの体験・出会いを通じて、運動をすることが好きになるきっかけづくりにつなげる。					
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続					
				計画	10月開催	10月開催	10月開催	10月開催	10月開催	
				実績	10月14日開催 市内小学6年生 1,300人参加					

基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価							
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価	実施計画	
(3) 運動クラブ・部活動の充実	① 小・中学校体育連盟の連携強化	小・中学校体育連盟活動推進事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	小学校体育連盟、中学校体育連盟	目標	小・中学校体育連盟の連携を強化し、運動クラブ・部活動の活性化を図る。				
				事業内容	学校間の運動クラブ・部活動にかかわる課題等の共有を図り、その解決策等について、協議・研究する機会の充実を図る。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	学校間の運動クラブ・部活動にかかわる課題等の共有を図るため、推進会議を開催し意見交換を行った。その結果、中学校部活動における指導者不足の課題について共有し、外部指導者の活用を課題解決に向けた取り組みとして取りまとめることができた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
				課題	外部指導者の活用が、各学校における部活動の状況に応じて実効性の高いものとしていくために、活用に向けた具体的な仕組みについて検討していく必要がある。	計画	推進会議 年3回	推進会議 年3回	推進会議 年3回	推進会議 年3回	推進会議 年3回
				評価	3 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	推進会議 年3回				
(3) 運動クラブ・部活動の充実	② スポーツ関係団体や大学等と連携した運動	運動クラブ・部活動支援事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	体育協会、立命館大学	目標	児童・生徒の競技力や運動クラブ・部活動に取り組む意欲の向上につなげる。				
				事業内容	運動クラブ・部活動の充実した運営体制の構築を図るため、スポーツ関係団体や大学等と連携し、指導者や支援員の派遣等を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	運動クラブ・部活動に対して外部指導者を派遣できる仕組みづくりについて、大津市の事例研究や関係団体との連携を検討した。その結果、体育協会と連携し、体育協会で実施予定の指導者人材バンクの活用による事業展開の枠組を検討できた。	区分	検討	検討	新規	継続	継続
				課題	平成29年度の本格実施に向けて、体育協会との連携を強化し、事業の細部について協議・調整を行い、効果的で継続性のある制度創設を行う必要がある。	計画	先進事例研究	支援制度設計	支援制度創設	支援件数 2件	支援件数 3件
				評価	4 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	・大津市事例研究 ・事業実施要項(案)作成				
(4) スポーツ少年団活動の活性化	① スポーツ少年団の支援	スポーツ少年団事業補助金	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	スポーツ少年団(体育協会)	目標	スポーツ少年団活動を促進し、団員確保につなげる。				
				事業内容	子どもが積極的にスポーツ活動を行い、心身の健全育成や仲間との交流等を生み出す環境を整えるため、スポーツ少年団活動の支援を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	団員確保のため、入団案内や活動内容を掲載したチラシを小学校を通して児童に配布した。その結果、新規入団者を確保することができ、団員数の増加につながった。また、老西小学校の開校により、団体の新規登録があった。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
				課題	指導者の不足により、団体数が全体として減少傾向にあることから、体育協会による指導者人材バンクを活用しながら、指導者の確保・育成が必要である。	計画	団員数 800人	団員数 910人	団員数 940人	団員数 970人	団員数 1,000人
				評価	3 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	団体数 37団体 団員数 806人 事業実施回数 10回				

基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施計画	5					
(6) スポーツ障害の予防	① スポーツ障害に関する学習の推進	スポーツドクター・スポーツトレーナー講習会	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	中学校体育連盟					
				事業内容	生徒が自身や他者の健康や安全を保持していくことで、継続的にスポーツできるよう、中学校におけるスポーツ障害に関する学習を推進する。					
				成果	中学校において、スポーツドクター・トレーナーによる、怪我の多い足首のテーピングの巻き方について実習した。その結果、生徒のアンケートにおいて高い評価を得ることができ、生徒のスポーツ障害の予防に対する知識を高まりにつながった。					
				課題	生徒のスポーツ障害の予防に対する知識の高まりにつながっているが、このことが、実際に怪我の減少など、生徒のスポーツ障害の予防につながっているのかを検証する必要がある。					
	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこぼなかった							
	実施計画	実施計画								
	目標	生徒のスポーツ障害に対する意識の醸成を図り、スポーツ活動中の事故等の予防に努める。								
	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
	区分	継続	継続	継続	継続	継続				
計画	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回					
実績	ドクター講習会 6回 トレーナー研修会 18回									
② スポーツ障害を防ぐ指導者の育成	スポーツ指導者講習会	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体						
			関係団体等	体育協会						
			事業内容	子どもが継続してスポーツに取り組んでいけるよう、スポーツ障害に関する豊富な知識を持つ指導者の育成を図る。						
			成果	体育協会と連携して、競技団体やスポーツ少年団の指導者を対象とした指導者講習会を開催した。その結果、スポーツ障害を未然に予防する指導体制やスポーツ障害への対応について知識を習得することができた。						
			課題	平成28年度については、指導者のスポーツ障害に関する基礎的な知識の習得を目指し、専門講座の開催を見送ったことから、今後、段階的に専門講座を開催し、指導者のステップアップを図る必要がある。						
評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこぼなかった								
実施計画	実施計画									
目標	指導者のスポーツ障害に対する意識の醸成を図り、子どものスポーツ活動中の事故等の予防に努める。									
年度	H28	H29	H30	H31	H32					
区分	継続	継続	継続	継続	継続					
計画	指導者講習会 1回 専門講座 3回	指導者講習会 1回 専門講座 3回	指導者講習会 1回 専門講座 3回	指導者講習会 1回 専門講座 3回	指導者講習会 1回 専門講座 3回					
実績	指導者講習会 1回									

基本方針2 生涯スポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価	
(1) 身近なスポーツイベントの充実	① 気軽に参加できるスポーツや健康づくり事業の推進	草津市民スポーツ・レクリエーション祭	スポーツ保健課	実施主体	体育振興会連絡協議会					
				関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員協議会					
				事業内容	子どもから高齢者までみんなでスポーツを楽しむことができるニュースポーツ等を実施し、市内14学区の連携と親睦を図り、生涯スポーツの普及と発展、市民の健康促進を図る。					
				成果	子どもの参加を狙い、子どもを対象にした種目をプログラムに組み入れ、学区対抗種目からニュースポーツまで幅広くスポーツに触れられる機会をつくった。その結果、多くの子どもの参加とその親世代の参加も多く見られた。					
				課題	市内の中学校や公共施設を通じてイベント周知を行ったが、中高生の参加が少なかったことから、中高生の参加を増やすため、市内の中学校の他、高等学校等にも周知を行っていく必要がある。					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこぼなかった				
				実施計画	目標	身近にスポーツを感じられる機会の充実を図るとともに、スポーツを通じた世代間の交流につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				計画	参加者数 950人	参加者数 1,000人	参加者数 1,050人	参加者数 1,100人	参加者数 1,150人	
実績	参加者数 997人									
(1) 身近なスポーツイベントの充実	② スポーツ活動機会の充実	チャレンジスポーツデー	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	体育協会、体育振興会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員、立命館大学					
				事業内容	市内の社会体育施設等で誰もが参加できるスポーツイベントを開催し、市民の健康づくりと市民相互の交流を図る。					
				成果	老上西小学校の開校により、新たに老上西学区体育振興会がチャレンジスポーツデーに参画いただいた。その結果、スポーツを体験できる新たな機会を提供することができた。					
				課題	雨天時等の統一的な対応ができず、開催の有無等について参加者への周知が十分できなかった。種目によっては参加者の減少も見られたことから、統一的なルールを定めるなど、より参加しやすい環境を整える必要がある。					
				評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこぼなかった				
				実施計画	目標	様々なスポーツを体験できる機会を提供することで、市民のスポーツ活動機会の充実を図る。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				計画	参加者数 5,800人	参加者数 5,900人	参加者数 6,000人	参加者数 6,100人	参加者数 6,200人	
実績	参加者数 5,006人									
(1) 身近なスポーツイベントの充実	③ 障害者が参加できるスポーツイベントの支援・充実	草津市いきいきふれあい大運動会	障害福祉課	実施主体	心身障害児者連絡協議会					
				関係団体等	障害者団体					
				事業内容	障害者団体と連携してスポーツイベントを開催し、障害者のスポーツ事業の充実を図るとともに、障害のある人となない人との交流につなげる。					
				成果	障害者団体と連携して「草津市いきいきふれあい大運動会」を開催した。その結果、障害のある人となない人との交流につながり、障害者(児)のスポーツ事業の充実と社会参加の促進が図られた。					
				課題	平成28年度については、参加者数が増加したが、障害のある人となない人が一緒になって、体を動かして楽しむことができる新たなプログラムを検討していく必要がある。					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこぼなかった				
				実施計画	目標	障害のある人の体力向上と社会参加を促進する。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				計画	参加者数 570人	参加者数 570人	参加者数 570人	参加者数 570人	参加者数 570人	
実績	参加者数 621人									

基本方針2 生涯スポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価	
① ウォーキングの推進	ウォーキング推進事業	スポーツ保健課	実施主体	スポーツ推進委員協議会、くさつ健・交クラブ						
			関係団体等	実施計画						
			事業内容	年間を通したウォーキング事業等を開催し、ウォーキングを通じた健康づくりを推進するとともに、年齢に応じたウォーキングや、ウォーキングを通じて交流ができる環境づくりを行う。						
			成果	歩こう会記録展示を行った結果、問合せが増加し、歩こう会の認知度の高まりにつながった。また、さらなるウォーキングの普及を図るため、歩こう会記念事業や健康ウォーク開催について検討を行い、事業化に向けた機運の高まりにつながった。						
			課題	健康ウォークの開催に向けて、関係団体や関係機関と連携し、具体的な事業計画に向けて協議を進めていく必要がある。						
評価	4	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった								
目標	誰でも気軽に取り組むことができるウォーキングを通じて、市民の健康づくりに対する機運の高まりにつなげる。									
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	継続		継続		継続		継続		継続	
計画	歩こう会 12回 /ルディックサークル 38回 /ルディック大会開催検討		歩こう会 12回 /ルディックサークル 38回 /ルディック大会開催		歩こう会 12回 /ルディックサークル 38回 /ルディック大会開催		歩こう会 12回 /ルディックサークル 38回 /ルディック大会開催		歩こう会 12回 /ルディックサークル 38回 /ルディック大会開催	
実績	歩こう会 12回 歩こう会記録展示 2回 歩こう会記念事業検討 /ルディックサークル 38回 健康ウォーク開催検討									
② ランニングの普及	ランニングイベントの開催	まちなか再生課	実施主体	民間事業者(草津川跡地テナントミックス事業内テナント)						
			関係団体等	草津まちづくり株式会社						
			事業内容	草津川跡地テナントミックス事業により誘致されるテナントとランニングステーションを活用したイベントを開催し、ランニングの普及を図り、健康づくりに対する機運を高める。						
			成果	平成28年度については、事業内容の検討期間であることから、イベント開催には至っておらず、具体的な成果は出ていない。						
			課題	現段階において、イベントの具体的な内容案が出ていないため、草津まちづくり株式会社および民間事業者(テナント)との調整が必要である。						
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった								
目標	誰もが気軽に参加できるランニングイベントを開催し、ランニングによる健康づくりの普及につなげる。									
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	検討		新規		継続		継続		継続	
計画	事業内容検討		イベント開催 年2回		イベント開催 年2回		イベント開催 年2回		イベント開催 年2回	
実績	事業内容検討									
③ ライフステージに応じた事業の推進	くさつ健康ポイント制度	健康増進課	実施主体	草津市						
			関係団体等	実施計画						
			事業内容	市民の積極的な健康づくりを促進するため、健診の受診や、健康講座への参加等、健康づくりに関する取り組み状況に応じてポイントを付与し、ポイントと引き換えに特典を受けていただく。						
			成果	ポイント交換者のアンケート結果においては、健康づくりに取り組む「励みになった」「きっかけになった」などの意見が聞かれ、市民の健康づくりの促進につながった。						
			課題	ポイント交換者は、日ごろから健康づくりに取り組むとともに、毎年健診を受診されている60歳～70歳代の方が多く、若壮年期の若い世代のポイント交換者が少ない。						
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった								
目標	健康づくりに対する関心の高まり、生活習慣改善に向けた行動変容のきっかけづくりやモチベーションの高まりにつなげる。									
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	新規		継続		継続		継続		継続	
計画	ポイント付与期間 6月～12月		ポイント付与期間 1月～12月		ポイント付与期間 1月～12月		ポイント付与期間 1月～12月		ポイント付与期間 1月～12月	
実績	ポイント付与期間 6月～12月 ポイント交換者 468人									

基本方針2 生涯スポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	目標	実施計画			
④くさつ健康はつらつ体操等の普及・促進	くさつ健康はつらつ体操	健康増進課	実施主体	健康推進員連絡協議会	目標	地域におけるくさつ健康はつらつ体操の普及と促進に努め、市民の健康増進につなげる。				
			関係団体等		年度	H28	H29	H30	H31	H32
			事業内容	地域のまつりや運動会、ふれあいサロン等において「くさつ健康はつらつ体操」を行い、体操の普及・促進に努め、市民の健康保持・増進を図る。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
			成果	地域のイベントやサロン等で「くさつ健康はつらつ体操」を行い、体操の普及・促進に努めたことにより、市民の健康保持・増進に寄与することができた。	計画	地域のイベントやサロンでの実施	地域のイベントやサロンでの実施	地域のイベントやサロンでの実施	地域のイベントやサロンでの実施	地域のイベントやサロンでの実施
			課題	「くさつ健康はつらつ体操」へより多くの方に参加いただき、市民のさらなる健康増進につなげるために、体操の取組効果を普及・啓発していく必要がある。	実績	実施回数 18回 参加人数 5,608人				
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった								
①高齢者が気軽に参加できる事業の推進	老人クラブ活動支援	長寿いきがい課	実施主体	草津市	目標	社会福祉の増進を図り、明るく活力のある高齢社会の実現を目指す。				
			関係団体等	老人クラブ連合会	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			事業内容	老人クラブ連合会主催の「健康フェスティバル」等の高齢者が気軽に参加できる事業を支援し、高齢者の健康づくりの機会の充実を図る。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
			成果	老人クラブ連合会主催の「健康フェスティバル」等の高齢者が気軽に参加できる事業を支援した。その結果、高齢者の健康づくりの機会が提供され、明るく活力のある高齢社会を実現させようとする機運の高まりにつながった。	計画	健康フェスティバル、健康ウォーキング等の開催	健康フェスティバル、健康ウォーキング等の開催	健康フェスティバル、健康ウォーキング等の開催	健康フェスティバル、健康ウォーキング等の開催	健康フェスティバル、健康ウォーキング等の開催
			課題	老人クラブ会員数の伸び悩みが生じてきていることから、老人クラブ連合会と連携したPR活動により、新たな会員確保につなげていく必要がある。	実績	・クラフトまつり天(7月) ・健康フェスティバル(10月) ・高齢者福祉大会(12月) ・健康ウォーキング(5月、11月、12月、1月)				
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった								
②いきいき百歳体操等の普及・促進	いきいき百歳体操	長寿いきがい課	実施主体	草津市	目標	身体を動かすことにより高齢者の介護予防を推進し、高齢者の元気で健康な暮らしにつなげる。				
			関係団体等		年度	H28	H29	H30	H31	H32
			事業内容	いきいき百歳体操等の軽運動の普及・促進により、地域ぐるみで高齢者の介護予防を推進する。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
			成果	地域におけるいきいき百歳体操の普及に取り組んだ。その結果、週1回以上百歳体操に継続的に取り組む団体が、平成27年度と比較し2団体増加した。	計画	地域においていきいき百歳体操や、転倒予防に関する取り組みを実施する。	地域においていきいき百歳体操や、転倒予防に関する取り組みを実施する。	地域においていきいき百歳体操や、転倒予防に関する取り組みを実施する。	地域においていきいき百歳体操や、転倒予防に関する取り組みを実施する。	地域においていきいき百歳体操や、転倒予防に関する取り組みを実施する。
			課題	これまでの取り組みにより、実施団体数が、概ね町内全数の半数を超えてきていることから、昨年団体数の増加が鈍化している。	実績	実施団体数 114団体				
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった								

基本方針2 生涯スポーツ活動の推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施計画	実施計画	実施計画	実施計画	実施計画	実施計画	
④ 食育による健康づくりの推進	① 子どもの食育の推進	離乳食レストラン	健康増進課	実施主体	草津市					
				関係団体等	健康推進員連絡協議会					
				事業内容	子育てを行う保護者が、離乳食のレシピや試食、栄養バランス等に関する食育について学び、保護者同士の交流や座談会を行う。					
				成果	子育てを行う保護者の食育に対する知識の習得や、保護者同士が交流できる機会が図られ、保護者同士が情報交換ができる場づくりができた。					
				課題	開催地域により、定員に達しない場合や満員のため参加をお断りする場合が生じたことから、開催地域の状況に応じて工夫した開催を検討する必要がある。					
	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった							
	実施計画	実施計画								
	目標	子育てを行う保護者が、離乳食の進め方を習得するとともに、保護者同士の交流により、それぞれが持つ育児不安の解消につなげる。								
	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
	区分	継続	継続	継続	継続	継続				
計画	月2回程度	月2回程度	月2回程度	月2回程度	月2回程度					
実績	年間20回開催									
② 高齢者の食育の推進	草津歯口からこんには体操	長寿いきがい課	実施主体	草津市						
			関係団体等							
			事業内容	草津歯口からこんには体操の普及・促進により、食べることを通じて、高齢者の健康な体づくりにつなげる。						
			成果	地域における草津歯口からこんには体操の普及に取り組んだ。その結果、週1回以上こんには体操に継続的に取り組む団体が、平成27年度と比較し5団体増加した。						
			課題	これまでの取り組みにより、実施団体数が、概ね町内全数の半数を超えてきていることから、昨年団体数の増加が鈍化している。						
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった								
実施計画	実施計画									
目標	食べることにより高齢者の介護予防を推進し、高齢者の元気で健康な暮らしにつなげる。									
年度	H28	H29	H30	H31	H32					
区分	継続	継続	継続	継続	継続					
計画	地域において草津歯口からこんには体操の取り組みを実施する。	地域において草津歯口からこんには体操の取り組みを実施する。	地域において草津歯口からこんには体操の取り組みを実施する。	地域において草津歯口からこんには体操の取り組みを実施する。	地域において草津歯口からこんには体操の取り組みを実施する。					
実績	実施団体数 76団体									

基本方針3 地域コミュニティによるスポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価								
				実施主体	関係団体等	目標	年度	区分	計画	実績		
(1) スポーツ推進委員活動の活性化	① 地域のスポーツ活動の活性化	スポーツ推進委員指導力向上事業	スポーツ保健課	実施主体	スポーツ推進委員協議会	実施計画						
				関係団体等		目標	スポーツ推進委員の指導力向上を図り、地域におけるスポーツのコーディネータとして各地域のスポーツ活動を推進する。					
				事業内容	滋賀県スポーツ推進委員協議会等が主催する各種研修会への参加や、スポーツ推進委員相互の連携・交流を図り、スポーツ推進委員活動を推進する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続			
				計画	研修会参加回数 5回 自己研修会回数 2回	研修会参加回数 5回 自己研修会回数 2回	研修会参加回数 5回 自己研修会回数 2回	研修会参加回数 5回 自己研修会回数 2回	研修会参加回数 5回 自己研修会回数 2回			
	成果	平成28年度については、草津市を会場として滋賀県スポーツ推進委員研修会をスポーツ推進委員協議会が中心となって企画・運営を行った。その結果、スポーツ推進委員相互の連携により、協議会の一層の団結につながった。	実績	研修会参加回数 5回 ・県域3、近畿1、全国1 自己研修会回数 2回 ・スポレク実技研修 ・スーパーカラム研修								
	課題	遠方により宿泊を伴う研修会もあり、スポーツ推進委員によっては参加しにくい場合もあることから、自己研鑽できる機会づくりのため、定期的な自己研修会の開催を検討していく必要がある。	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった							
	② 地域各種団体等との連携によるスポーツ活動の推進	スポーツ推進委員活動推進事業	スポーツ保健課	実施主体	スポーツ推進委員協議会	実施計画						
				関係団体等	体育協会、くさび・交クラブ、各体育振興会、各地域スポーツクラブ	目標	スポーツ推進委員の積極的な協力により、地域等におけるスポーツ活動の活性化につなげる。					
				事業内容	地域の各種団体等が行うスポーツ活動に積極的に協力し、より効率的・効果的なスポーツ活動を推進する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
区分				継続	継続	継続	継続	継続				
計画				協力事業数 4 出前講座回数 3回	協力事業数 4 出前講座回数 3回	協力事業数 4 出前講座回数 3回	協力事業数 4 出前講座回数 3回	協力事業数 4 出前講座回数 3回				
成果	市民や各種団体の依頼により、ニュースポーツの出前講座を積極的にに行った。その結果、ニュースポーツ備品の問い合わせや貸し出しの増加につながった。	実績	協力事業数 4 ・恒・交フェスタ ・スポークリエーション祭 ・駅伝競走大会 ・レイクサイドマラソン 出前講座回数 6回 ・児童育成クラブ ・育成会 他									
課題	出前講座の依頼が、子どもから高齢者まで幅広いことから、それぞれのニーズに応じた指導ができるよう、スポーツ推進委員の指導力の向上に努める必要がある。	評価	4	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった								
(2) 体育振興会活動の活性化	① 学区単位のスポーツ活動の活性化	地域スポーツイベントの開催	スポーツ保健課	実施主体	各体育振興会	実施計画						
				関係団体等	各スポーツ推進委員	目標	地域のスポーツ活動の活性化により、地域内の交流や学区間の連携強化につなげる。					
				事業内容	学区運動会をはじめとした地域の各種スポーツイベントの活性化を図る。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続			
				計画	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	実績	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	各地域において、学区運動会やチャレンジスポーツデー等のスポーツイベントを開催する。	
	成果	各地域において、運動会やチャレンジスポーツデーをはじめとしたスポーツイベントを開催した。その結果、スポーツを通じた地域内の交流ができる機会づくりにできた。	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった							
	課題	地域によっては、若い世代の参加者が少ない状況にあることから、開催日やプログラム等を工夫し、若い世代が参加しやすい環境づくりが必要である。										

基本方針3 地域コミュニティによるスポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価												
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価							
(3) 総合型地域スポーツクラブ設立の支援	① 地域スポーツクラブ設立の支援	地域スポーツクラブ設立支援事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画										
				関係団体等	各体育振興会、各スポーツ推進委員	目標	地域スポーツクラブの設立により、市民が身近にスポーツができる環境づくりにつなげる。									
				事業内容	市民が身近にスポーツができる環境を整えるため、学区単位の地域スポーツクラブ設立の支援を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32					
				成果	体育振興会連絡協議会において、市内先進地域の事例研究(研修会)を実施した。その結果、2学区より地域スポーツクラブ設立の意向が示された。	区分	検討	検討	新規	継続	継続					
				課題	2学区より地域スポーツクラブ設立の意向が伺えたが、設立にあたっての具体的な取り組みが確立されていないことから、2学区をモデルケースとして取り組みを進め、この取り組みを他の学区に広げていく必要がある。	計画	先進事例研究	支援制度設計	支援制度創設	設立クラブ数 2クラブ	設立クラブ数 2クラブ					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	市内先進地域の事例研究(志津スポーツクラブの取組について)								
				(3) 総合型地域スポーツクラブの活性化	② 総合型地域スポーツクラブの支援	総合型地域スポーツクラブ事業補助金	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画						
								関係団体等	くさつ健・交クラブ	目標	くさつ健・交クラブの活発な活動により、市民が多様なスポーツ活動を行える環境づくりにつなげる。					
								事業内容	くさつ健・交クラブの活動基盤を強化するための支援を行い、活発な活動を促進し、市民の多様なスポーツニーズに対応したスポーツメニューの提供やスポーツができる環境を整える。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
								成果	会員より要望があったスプレックスサークルおよびピンポンサークルを新たに開設した。その結果、会員のニーズに応えたスポーツメニューの提供が図れ、新規会員の確保につなげることができた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続	
課題	くさつ健・交クラブの活動基盤の強化には、さらなる会員確保が必要であることから、既存事業の見直しや工夫、新規事業の実施等により魅力のあるスポーツメニューの提供とともに、クラブの認知度を高めていく取り組みが必要である。	計画	クラブ会員数 600人					クラブ会員数 660人	クラブ会員数 700人	クラブ会員数 750人	クラブ会員数 800人					
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績					クラブ会員数 560人 (H28.12現在)								
(4) 各種関係団体との連携強化	① 各種関係団体との連携強化	各種関係団体と連携したスポーツ活動	スポーツ保健課					実施主体	各体育振興会	実施計画						
								関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ	目標	地域の各種スポーツイベント等の充実により、地域住民の主体的なイベント参加につなげる。					
								事業内容	地域の各種スポーツイベント等の充実を図るため、各種関係団体との連携を強化し、効率的・効果的なスポーツ活動を推進する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
								成果	体育振興会連絡協議会において、各学区の運動会開催に係る情報共有を行ったことにより、各学区において運動会の運営やプログラムの工夫が見られた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				課題	全市的取り組みのチャレンジスポーツデーを各学区においても開催いただいたが、雨天時等について統一した対応ができなかったため、参加者の減少も見られたことから、統一したルールを定めるなど、より参加しやすい環境を整える必要がある。	計画	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、スポーツイベント等を開催する。	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、スポーツイベント等を開催する。	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、スポーツイベント等を開催する。	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、スポーツイベント等を開催する。	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、スポーツイベント等を開催する。					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	各学区において、スポーツ推進委員をはじめとした各関係団体と連携し、運動会やチャレンジスポーツデー等の各種スポーツ大会を開催した。								

基本方針3 地域コミュニティによるスポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価							
				実施主体	関係団体等	目標	年度	区分	計画	実績	
(6) 大学や企業等との連携強化	① 大学等と連携したスポーツ活動の推進	大学等と連携したスポーツ活動	スポーツ保健課	実施主体	各体育振興会	実施計画					
				関係団体等	立命館大学、市内高等学校	目標	地域住民と学生・生徒の交流を通じて、地域のスポーツ活動の活性化につなげる。				
				事業内容	地域のスポーツ活動において大学や高等学校等と連携し、大学等の専門性を生かした幅広いスポーツ活動を推進する。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	立命館大学の協力のもと、地域における健康バンドやウォーキング事業が展開された。その結果、より専門性の高い運動メニューが住民に提供され、地域における運動や健康づくりの機運の高まりにつながった。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
				課題	現在取り組みを進めている地域の事例を広く情報提供し、他の地域へ取り組みを広げていく必要がある。	計画	立命館大学や地域に所在する高等学校等と連携し、地域住民と学生・生徒が交流できるスポーツイベント等を開催する。	立命館大学や地域に所在する高等学校等と連携し、地域住民と学生・生徒が交流できるスポーツイベント等を開催する。	立命館大学や地域に所在する高等学校等と連携し、地域住民と学生・生徒が交流できるスポーツイベント等を開催する。	立命館大学や地域に所在する高等学校等と連携し、地域住民と学生・生徒が交流できるスポーツイベント等を開催する。	立命館大学や地域に所在する高等学校等と連携し、地域住民と学生・生徒が交流できるスポーツイベント等を開催する。
	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	立命館大学の協力のもと、地域において健康バンドやウォーキング事業を実施した。						
	② 企業等と連携したスポーツ活動の推進	くさつMIO夢先生事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	MIOびわこ滋賀	目標	地域住民がプロスポーツを身近に感じ、スポーツに対する関心の高まりや意欲の醸成につなげる。				
				事業内容	地域においてMIOびわこ滋賀の持つ専門性を生かしたスポーツメニューの提供や地域のスポーツイベント等への協力を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	地域において専門性を生かしたスポーツメニューを提供するため、MIOびわこ滋賀の選手等によるサッカー体験を行った。その結果、地域住民と選手等の交流につながり、身近にプロスポーツを感じる機会となった。	区分	市内2地域	市内3地域	市内3地域	市内3地域	市内3地域
課題				ふれあいまつり等の地域イベントに合わせて開催を希望される地域が多いことから、実施する地域を拡大させるため、早期より事業周知を行い、地域イベントへ事業を組み入れていただけるよう調整が必要である。	計画						
評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	市内1地域							

基本方針4 競技スポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価							
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価		
(1) 体育協会活動の活性化	① 体育協会の支援	体育協会運営・事業補助金	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	体育協会	目標	競技団体の統括組織として、体育協会事務局の適正な運営体制を継続的に整えていく。				
				事業内容	競技団体の活発な活動を促進するため、競技団体を統括する体育協会の運営や活動の支援を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	体育協会へ補助金を交付し、その運営や活動を支援した。その結果、体育協会の適正な運営体制を整え、競技団体の統括組織として、競技団体の事業や活動に連携・協力し、その活発な活動の促進につなげることができた。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
				課題	体育協会の公益法人化(H28)に伴い、既存事業に加え、公益事業と併せて、国民体育大会に向けた指導者や選手の育成に係る事業を展開していく必要があることから、体育協会の運営体制をより強化させていく必要がある。	計画	体育協会の運営や活動の支援を行い、適正な運営体制を整える。	体育協会の運営や活動の支援を行い、適正な運営体制を整える。	体育協会の運営や活動の支援を行い、適正な運営体制を整える。	体育協会の運営や活動の支援を行い、適正な運営体制を整える。	体育協会の運営や活動の支援を行い、適正な運営体制を整える。
	評価	3	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりでなかった 1: 取り過ぎなかった	実績	体育協会の適正な運営体制を整えるため、補助金を交付し、その運営や活動を支援した。						
	② 国民体育大会に向けた競技力の向上	国民体育大会に向けた選手の発掘・育成	スポーツ保健課	実施主体	体育協会	実施計画					
				関係団体等		目標	若い世代の選手の発掘・育成を図ることで、各種競技スポーツの競技力向上につなげる。				
				事業内容	競技団体と連携し、国民体育大会に向けた選手の発掘・育成を図る。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	体育協会において、競技団体と連携し、スポーツ教室や講習会を開催した結果、ジュニア世代の競技力の向上につながった。	区分	検討	検討	新規	継続	継続
課題				競技力向上のためのスポーツ教室や講習会を、引き続き開催していくとともに、指導者の確保・育成に係る取り組みと関連付けた、選手の発掘・育成できる仕組みを検討していく必要がある。	計画	競技力向上のためのスポーツ教室や講習会の参加者数 500人	競技力向上のためのスポーツ教室や講習会の参加者数 600人	競技力向上のためのスポーツ教室や講習会の参加者数 700人	競技力向上のためのスポーツ教室や講習会の参加者数 800人	競技力向上のためのスポーツ教室や講習会の参加者数 900人	
評価	2	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりでなかった 1: 取り過ぎなかった	実績	・サッカー教室 177人 ・グラウンドゴルフ教室 4人 ・テニス教室(3月開催) ・剣道教室(3月開催)							
(2) スポーツ少年団活動の活性化	① スポーツ少年団の支援	スポーツ少年団事業補助金	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	スポーツ少年団(体育協会)	目標	スポーツ少年団活動を促進し、団員確保につなげる。				
				事業内容	子どもが積極的にスポーツ活動を行い、心身の健全育成や仲間との交流等を生み出す環境を整えるため、スポーツ少年団活動の支援を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				成果	団員確保のため、入団案内や活動内容を掲載したチラシを小学校を通して児童に配布した。その結果、新規入団者を確保することができ、団員数の増加につながった。また、老々西小学校の開校により、団体の新規登録があった。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
				課題	指導者の不足により、団体数が全体として減少傾向にあることから、体育協会による指導者人材バンクを活用しながら、指導者の確保・育成が必要である。	計画	団員数 880人	団員数 910人	団員数 940人	団員数 970人	団員数 1,000人
				評価	3	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりでなかった 1: 取り過ぎなかった	実績	団体数 37団体 団員数 806人 事業実施回数 10回			

基本方針4 競技スポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価					
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価
(3) 各種大会出場者への支援	① 激励金の交付	スポーツ選手各種大会出場激励金	スポーツ保健課	実施主体	草津市				
				関係団体等					
				事業内容	競技に取り組む選手の側面的支援を行うため、各種大会出場者に激励金を交付する				
				目標	選手の大会参加や競技に取り組む意欲の向上につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	継続	継続	継続	継続	継続
計画	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。				
実績	交付件数 56件 (H28.12現在)								
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった							
	② スポーツ顕彰の実施	草津市民スポーツ大賞	スポーツ保健課	実施主体	草津市				
				関係団体等					
				事業内容	オリンピックや世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰し、スポーツ功労をたたえる。				
				目標	選手の競技に取り組む意欲の向上と、選手の活躍が市民の勇気と感動につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	継続	継続	継続	継続	継続
計画	世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰する。	世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰する。	世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰する。	世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰する。	世界選手権大会等において、極めて優秀な成績をおさめられた選手を「草津市民スポーツ大賞」で表彰する。				
実績	受賞者数 0人 (H28.12現在)								
評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった							
(4) 障害者スポーツの推進	③ 障害者アスリートへの支援	障害者アスリート各種大会出場激励金	障害福祉課	実施主体	草津市				
				関係団体等					
				事業内容	パラリンピックや全国障害者スポーツ大会等の出場者に激励金を交付する。				
				目標	障害のある人の各種大会参加や競技へ取り組む意欲の向上につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	継続	継続	継続	継続	継続
計画	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。	各種大会出場者に激励金を交付する。				
実績	交付件数 3件 (H28.12現在)								
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった							

基本方針4 競技スポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	事業内容	成果	課題	評価	
	福の草津市立障害者センター等の福祉センターによる障害者スポーツの推進	滋賀県障害者スポーツ大会	障害福祉課	実施主体	草津市					
				関係団体等						
				事業内容	各種関係団体等と連携し、スポーツに取り組む選手の滋養障害者スポーツ大会への参加を支援する。					
				成果	各種関係団体等と連携し、スポーツに取り組む選手に対して、滋養障害者スポーツ大会の周知や参加に係る支援を行った。その結果、選手が積極的に大会へ参加し、障害者スポーツの競技力の向上につながった。					
				課題	選手の大会への関心を高め、積極的な大会参加を促進するため、各種関係団体と連携し、より効果的な情報発信と支援を検討する必要がある。					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取りこぼしがあった				
				実施計画						
				目標	障害者スポーツの裾野の拡大と競技力の向上を図る。					
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				計画	参加者数 65人	参加者数 65人	参加者数 65人	参加者数 65人	参加者数 65人	
				実績	参加者数 62人					
-33-	① ジュニアアスリートの育成	各種ジュニアスポーツ教室	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体					
				関係団体等	体育協会					
				事業内容	スポーツ関係団体等と連携して、専門的な技術を持つ指導者を招いたスポーツ教室を開催し、ジュニアアスリートの育成を図る。					
				成果	競技団体と連携して、専門的指導者によるスポーツ教室を開催した。その結果、ジュニア世代に対して、より技術的な指導が行うことができ、参加者の基礎的技術の習得につながった。					
				課題	参加者によって技術のレベルが異なることから、レベルに応じて段階的な指導が行えるよう指導体制を検討する必要がある。					
				評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取りこぼしがあった				
					実施計画					
					目標	スポーツ教室を通じて、ジュニア選手の発掘や継続的なスポーツ活動の支援につなげる。				
					年度	H28	H29	H30	H31	H32
					区分	継続	継続	継続	継続	継続
					計画	小学生対象 6教室 中学生対象 1教室	小学生対象 6教室 中学生対象 1教室	小学生対象 6教室 中学生対象 1教室	小学生対象 6教室 中学生対象 1教室	小学生対象 6教室 中学生対象 1教室
					実績	小学生対象 6教室 バレーボール教室 バスケットボール教室 ソフトテニス教室(春・秋) 少年少女スポーツ教室 小学生野球教室 中学生対象 1教室 中学生バレーボール教室				
② 専門性を生かしたアスリートの育成	大学・企業等と連携したアスリートの育成	大学・企業等と連携したアスリートの育成	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体					
				関係団体等	体育協会、立命館大学					
				事業内容	大学等と連携し、より専門性の高い指導を行うなど、それぞれの専門的観点からアスリートの育成や支援を行う。					
				成果	民間企業によるアスレチックトレーナーを指導者に迎え、スポーツ講座を開催した。その結果、参加者の状態に応じて専門的な指導が行うことができる身近な機会を提供することができた。					
				課題	事業が単発的になりがちにあり、専門的支援を継続的に行っていくためには、立命館大学等と連携した支援体制づくりが必要である。					
				評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取りこぼしがあった				
				実施計画						
				目標	大学等の専門性を生かしたアスリートの育成や支援ができる機会を継続的に提供する。					
				年度	H28	H29	H30	H31	H32	
				区分	継続	継続	継続	継続	継続	
				計画	スポーツ講座 3回	スポーツ講座 3回	スポーツ講座 3回	スポーツ講座 3回	スポーツ講座 3回	
				実績	スポーツ講座 2回					

(5) 将来を担うアスリートの育成

基本方針4 競技スポーツの推進

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価											
				実施主体	関係団体等	事業内容	課題	評価	実施計画						
(6) 競技大会の推進	① 草津市民体育大会の開催	草津市民体育大会	スポーツ保健課	実施主体	草津市	関係団体等	体育協会	事業内容	県民体育大会の選手選考会を兼ねた「草津市民体育大会」を種目別に開催し、選手の日ごろの練習の成果を発揮する場や選手間の交流する機会を提供する。	目標	大会の開催を通じて、選手個々の競技力の向上を図り、各競技全体の競技力向上につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32						
				区分	継続	継続	継続	継続	継続						
				計画	参加者数 1,900人	参加者数 2,000人	参加者数 2,100人	参加者数 2,200人	参加者数 2,300人						
				実績	参加者数 1,656人 (H28.12現在)										
	評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった												
	② 各種競技大会の開催	各種競技大会	スポーツ保健課	実施主体	草津市	関係団体等	体育協会	事業内容	「草津市武道祭」や「草津市駅伝競走大会」等、競技力の向上につながる各種競技大会を開催する。	目標	大会の開催を通じて、各競技の競技人口拡大につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32						
				区分	継続	継続	継続	継続	継続						
				計画	武道祭参加者数 320人 駅伝参加チーム数 145チーム	武道祭参加者数 320人 駅伝参加チーム数 145チーム	武道祭参加者数 320人 駅伝参加チーム数 145チーム	武道祭参加者数 320人 駅伝参加チーム数 145チーム	武道祭参加者数 320人 駅伝参加チーム数 145チーム						
実績				武道祭参加者数 260人 駅伝参加チーム数 125チーム											
評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった													

基本方針5 スポーツ環境の充実

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価					
				実施計画					
① 指導者の育成	スポーツ指導員等資格取得支援事業	スポーツ保健課	実施主体	体育協会					
			関係団体等						
			事業内容	各種スポーツの指導者の資質と指導力の向上、新たな指導者の育成を図るため、スポーツ指導員等の資格取得に係る支援を行う。					
			成果	スポーツ指導員等の資格取得に係る取り組みについて検討した結果、既に専門的な知識を有する指導者の現状把握が必要であると考え、指導者の現状把握に取り組んだことから、平成28年度については、成果は出ていない。					
			課題	把握した指導者の状況を踏まえ、強化すべき種目や資格について分析したうえで、必要な支援に係る取り組みの枠組みを検討し、構築する必要がある。					
評価	1	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった							
				目標	専門的な知識を有する指導者を育成することで、競技に取り組む選手の競技力向上や指導体制の充実につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	検討	検討	新規	継続	継続
				計画	先進事例研究	支援制度設計	支援制度創設	支援件数 2件	支援件数 2件
				実績	取組なし				
② 体育協会との連携	指導者人材バンク	スポーツ保健課	実施主体	体育協会					
			関係団体等						
			事業内容	競技別指導者の情報を集約して指導者人材バンクを構築し、ニーズに応じて、指導者を派遣する。					
			成果	指導者人材バンクの構築に向けて競技団体と連携し、指導者の把握を行った。その結果、競技別指導者の情報を集約できた。					
			課題	集約できた情報をもとに指導者人材バンクを整え、ニーズに応じた指導者の派遣が行えるよう、具体的な仕組みづくりを行う必要がある。					
評価	4	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった							
				目標	新たな指導者の発掘・育成につなげ、競技スポーツの指導体制の充実につなげる。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	検討	検討	新規	継続	継続
				計画	先進事例研究	指導者情報集約 人材バンク制度設計	人材バンク制度創設	指導者派遣件数 3件	指導者派遣件数 6件
				実績	県内他市等の事例研究 指導者の情報集約				
③ スポーツボランティアの育成	スポーツボランティア登録制度	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体					
			関係団体等	体育協会、くさつ健・クラブ					
			事業内容	各種スポーツイベント等の円滑な運営を図るため、スポーツボランティア登録制度を設置し、スポーツボランティアの発掘・育成を図る。					
			成果	スポーツボランティア登録制度の創設に向けて、県の登録制度等を研究しながら、今後の取り組みについて組織内で検討した。その結果、登録によるインセンティブの導入など、制度設計に係るアイデアを抽出することができた。					
			課題	効果的で持続可能なスポーツボランティア登録制度を創設していくために、抽出したアイデアを踏まえ精査し、より具体的な制度の仕組みづくりを検討していく必要がある。					
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取りこまなかった							
				目標	スポーツボランティアの協力体制を充実させ、ニーズに応じた協力が得られる環境を整える。				
				年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	検討	検討	新規	継続	継続
				計画	先進事例研究	登録制度設計	登録制度創設	登録数 10人	登録数 20人
				実績	県等の事例研究 制度設計に向けたアイデア抽出				

基本方針5 スポーツ環境の充実

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価							
				実施主体	関係団体等	事業内容	目標	年度	区分	計画	実績
④ スポーツボランティア機会の充実	スポーツボランティアの積極的活用	スポーツボランティアの積極的活用	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
				関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ	目標	新たなスポーツボランティアの発掘・育成を図り、スポーツを支える人材確保につなげる。				
				事業内容	各種スポーツイベント等において、スポーツボランティアの積極的な受け入れを行い、スポーツボランティア機会の充実を図る。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	継続	継続	継続	継続	継続		
				計画	ボランティア協力数 5人	ボランティア協力数 7人	ボランティア協力数 9人	ボランティア協力数 11人	ボランティア協力数 13人		
成果	スポーツレクリエーション祭やジュニアスポーツフェスティバル、駅伝競走大会の開催にあたり、運営ボランティアの受け入れ体制を整えた。その結果、ボランティアとして参加できる機会を広く提供することができた。										
課題	主要なスポーツイベントの開催にあたっては、運営ボランティアを広く募集するが、応募がない場合も多いため、関係団体と連携し、受け入れについて効果的な周知を行っていく必要がある。										
評価	2	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった									
① ホームページを活用した情報発信の充実	草津市スポーツ情報ネットの充実	草津市スポーツ情報ネットの充実	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体	実施計画					
				関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員協議会	目標	市民の多様なニーズに応じたスポーツ情報の発信に努め、市民のスポーツに対する関心の高まりにつなげる。				
				事業内容	社会体育施設のHP「草津市スポーツ情報ネット」の充実を図るため、スポーツ関係団体の活動情報等の相互リンクや、予約情報システム導入の検討を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	継続	継続	継続	継続	継続		
				計画	HPアクセス数 76,000	HPアクセス数 82,000	HPアクセス数 88,000	HPアクセス数 94,000	HPアクセス数 100,000		
成果	社会体育施設のHP「草津市スポーツ情報ネット」のデザインを刷新し、SNSと連動したイベント情報や、予約情報（施設空き状況）をリアルタイムに発信した。その結果、HPアクセス数が大幅に増加し、市民のスポーツに対する関心の高まりにつながった。										
課題	現在の状況を維持、さらに向上させていくためには、市民のニーズに応じた、よりきめ細かな情報発信を行う必要がある。										
評価	5	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった									
② 各種情報メディアを活用した情報発信の充実	草津市スポーツ情報紙の発行	草津市スポーツ情報紙の発行	スポーツ保健課	実施主体	草津市スポーツ振興事業体	実施計画					
				関係団体等	体育協会、くさつ健・交クラブ、スポーツ推進委員協議会	目標	市民がスポーツ情報に接しやすい環境を整え、市民の積極的なスポーツ活動への参画につなげる。				
				事業内容	市内のスポーツイベントや、各スポーツ関係団体の活動状況等の情報を集約したスポーツ情報紙を発行し、スポーツ情報のより効率的・効果的な発信を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
				区分	検討	検討	新規	継続	継続		
				計画	先進事例研究	市内スポーツ情報集約	情報紙発行	情報紙発行	情報紙発行		
成果	スポーツ情報紙の発行に向けて、県体協の事例を研究しながら、今後の取り組みについて組織内で検討した。その結果、インターネットを活用した互換の発行など、情報紙のスタイル等についてアイデアを抽出することができた。										
課題	スポーツ情報紙の発行に向けて、抽出したアイデアを踏まえ精査し、市内のスポーツ情報について効率的かつ効果的に集約できる方法とともに、市民が情報を入手しやすい発信方法を検討する必要がある。										
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりでなかった 1:取り組まなかった									

基本方針5 スポーツ環境の充実

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	目標	実施計画			
① (仮称) 野村スポーツゾーンの整備	野村公園整備事業	公園緑地課	実施主体	草津市	実施計画					
			関係団体等	体育協会、観光物産協会、中心市街地活性化協議会、立命館大学	目標	既存スポーツ施設の規模や機能強化により、様々な競技や大規模なスポーツイベント等の受け入れにつなげる。				
			事業内容	中心市街地活性化に貢献する集客拠点、かつ緑地やオープンスペースが不足する中心市街地のみどりの拠点となるよう、既存スポーツ施設の規模や強化等を核とした公園整備を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			成果	H28より新体育館の建築工事を行うため、用地取得を行った(H29.3.27土地売買契約締結予定)。その結果、新体育館整備に係る事業進捗につながった。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
			課題	中心市街地活性化に貢献する集客拠点としていくためには、適切な管理・運営を行う必要がある。このため、効果的な管理・運営手法の検討を行う必要がある。	計画	◆第1期事業 用地取得	◆第1期事業 建築工事 ◆第2期事業 基本設計	◆第1期事業(完了) 建築工事 ◆第2期事業 実施設計	◆第2期事業 用地取得 整備工事	◆第2期事業 整備工事(完了)
評価	3 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	◆第1期事業 用地取得(約15,000㎡) ※H29.3.27土地売買契約 締結予定							
② 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けた施設の整備・充実	社会体育施設整備改修事業(団体整備)	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
			関係団体等	体育協会	目標	国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の競技種目の開催に必要な施設規模を確保する。				
			事業内容	国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、競技会場となる社会体育施設の必要な整備・改修を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			成果	市内で開催する競技種目の内定を受けた。	区分	検討	新規	継続	継続	継続
			課題	競技種目の内定を受け、今後、開催に必要な施設規模を確保するための、整備・改修について関係団体・関係機関と連携を図りながら、具体的な取り組みを行っていく必要がある。	計画	競技種目等の情報収集	競技会場の整備・改修 ・野村公園体育館	競技会場の整備・改修 ・野村公園体育館	競技会場の整備・改修	競技会場の整備・改修
評価	3 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	競技種目の内定 ・バレーボール (成年男女) ・バスケットボール (少年女子) ・ソフトボール (少年男子)							
③ 施設のバリアフリー化の推進	社会体育施設整備改修事業(営繕)	スポーツ保健課	実施主体	草津市	実施計画					
			関係団体等	体育協会	目標	社会体育施設の適正な機能を維持していくことで、誰もが快適にスポーツができる環境を整える。				
			事業内容	スポーツができる場所として社会体育施設の適正な機能を維持していくために、施設に必要な改修等を行う。	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			成果	社会体育施設3施設について、必要な改修・補修を行った。その結果、社会体育施設の適正な機能の維持につながった。	区分	継続	継続	継続	継続	継続
			課題	市内の社会体育施設については、施設の躯体のみならず、付帯設備やスポーツ備品についても経年による老朽化が進んでいることから、施設改修と合わせて計画的な設備更新を検討していく必要がある。	計画	必要な整備・改修 ・常盤東健康広場 ・武道館武道場床 ・ふれあい体育館外壁	必要な整備・改修	必要な整備・改修	必要な整備・改修	必要な整備・改修
評価	3 5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった	実績	常盤東健康広場 グラウンド舗装改修 武道館武道場床 床塗装補修 ふれあい体育館外壁 外壁補修							

基本方針5 スポーツ環境の充実

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価						
				実施主体	関係団体等	事業内容	課題	評価	実施計画	
④ 市民センター等の地域の身近な施設の活用	市民センター等の地域の身近な施設の活用	公民館貸館事業	まちづくり協働課	実施主体	草津市					
				関係団体等						
				事業内容	公民館において各階室の貸館を行い、健康体操やダンス等の運動・スポーツができる場所を提供する。					
				成果	市内14公民館において各階室の貸館を行い、健康体操やエアロビクス、卓球等の運動・スポーツが行われ、公民館を身近に運動・スポーツができる場所として、多くの市民に利用いただくことができた。					
				課題	子どもから高齢者まで誰もがより気軽に公民館を利用していたくために、貸館について積極的な広報活動を行うとともに、利用しやすい環境を整えるため、適正な施設管理に継続して努めていく必要がある。					
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった		目標	公民館の貸館を通じて、市民が身近に運動・スポーツができる場所や機会の充実につなげる。					
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	継続		継続		継続		継続		継続	
計画	貸館施設 14館		貸館施設 14館		貸館施設 14館		貸館施設 14館		貸館施設 14館	
実績	貸館施設 14館									
⑤ 公園の整備・充実	公園の整備・充実	児童公園等再整備事業	公園緑地課	実施主体	草津市					
				関係団体等	各町内会					
				事業内容	児童公園・児童遊園の老朽化対策として、地元町内会の意見等を聴くことで、利用者ニーズの把握に努めながら、再整備(リニューアル)、改修を行う。					
				成果	住民の外出機会を増やすため、地元町内会の意見等を踏まえながら市内3箇所の公園再整備を行った。その結果、身近に運動・スポーツができる環境の整備につながった。					
				課題	市内約300箇所の公園において老朽化が進んでおり、長寿化対策が必要となっているが、財源確保等の課題により、抜本的な対策が進んでいない。					
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった		目標	利用者ニーズに合った公園の再整備を行うことで、子どもの外遊びの機会を増やし、基礎体力の増進につなげる。					
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	継続		継続		継続		継続		継続	
計画	公園再整備 3箇所		公園再整備 3箇所		公園市整備 3箇所		公園再整備 3箇所		公園再整備 3箇所	
実績	公園再整備 3箇所 ・野村下伊豆田児童遊園 ・田白児童公園 ・木川四石舞児童公園									
(4) 学校体育施設開放の充実	学校体育施設開放の充実	学校体育施設開放事業	スポーツ保健課	実施主体	草津市					
				関係団体等	さつ健・交クラブ、各地域スポーツクラブ					
				事業内容	市内小・中学校の学校体育施設を広く開放し、市民が身近にスポーツができる場所の充実を図るとともに、地域スポーツクラブ等による学校開放運営を推進する。					
				成果	老上西小学校の体育館およびグラウンドを新たに開放した。その結果、開放枠を拡充できたことにより、身近にスポーツができる場所の充実につながった。					
				課題	開放枠を拡充できたものの利用団体数が多い水準にあり、利用団体によっては、希望する学校や曜日確保できない場合もあることから、今後の状況を踏まえながら、開放に係るルール等の見直しについて検討していく必要がある。					
評価	3	5:計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4:計画以上にできた 3:計画どおりできた 2:計画どおりできなかった 1:取り組まなかった		目標	身近な場所ですportsができる環境を整えることにより、市民の活発なスポーツ活動につなげる。					
年度	H28		H29		H30		H31		H32	
区分	継続		継続		継続		継続		継続	
計画	開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 4校 中学校 1校		開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 4校 中学校 1校		開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 4校 中学校 1校		開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 6校 中学校 1校		開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 8校 中学校 1校	
実績	開放校 小学校 14校 中学校 5校 クラブ運営校 小学校 4校 中学校 1校									

基本方針5 スポーツ環境の充実

施策	具体的な取組	事業名	担当課	点検・評価					
				実施計画					
(5) 企業等管理施設の有効活用	① 企業等管理施設の有効活用	企業等管理施設の一般開放の検討	スポーツ保健課	実施主体	草津市				
				関係団体等	企業等				
				事業内容	市内のスポーツができる場所を充実させるため、企業等と連携・協力し、企業等が保有する体育施設の市民への一般開放を検討する。				
				成果	大学や企業等が有する市内の主な体育施設の把握に努めた。その結果、立命館大学の協力のもと、スポーツ大会等の開催にあたって、今後の大学施設の利用について確認することができた。				
				課題	体育施設の一般開放を企業等に協力いただくためには、企業等に事業趣旨を理解いただくとともに、協力に対する顕彰等のインセンティブを検討する必要がある。				
				評価	3	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりできなかった 1: 取りこまなかった			
目標	体育施設を保有する企業の協力を得て、より市民が身近にスポーツができる場所の充実につなげる。								
年度	H28	H29	H30	H31	H32				
区分	検討		検討		新規				
計画	先進事例研究	企業保有施設情報収集	一般開放制度設計	一般開放制度創設	協力企業数 2企業				
実績	企業保有施設情報収集	/							
(6) スポーツ観戦機会の充実	① (仮称)野村スポーツゾーンの推進	野村公園整備事業	公園緑地課	実施主体	草津市				
				関係団体等	体育協会、観光物産協会、中心市街地活性化協議会、立命館大学				
				事業内容	中心市街地活性化に貢献する集客拠点、かつ緑地やオープンスペースが不足する中心市街地のみどりの拠点となるよう、既存スポーツ施設の規模や強化等を核とした公園整備を行う。				
				成果	H29より新体育館の建築工事を行うため、用地取得を行った(H29.3.27土地売買契約締結予定)。その結果、新体育館整備に係る事業進捗につながった。				
				課題	中心市街地活性化に貢献する集客拠点としていくためには、適切な管理・運営を行う必要がある。このため、効果的な管理・運営手法の検討を行う必要がある。				
				評価	3	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりできなかった 1: 取りこまなかった			
目標	既存スポーツ施設の規模や機能強化により、様々な競技や大規模なスポーツイベント等の受け入れにつなげる。								
年度	H28	H29	H30	H31	H32				
区分	継続		継続		継続				
計画	◆第1期事業 用地取得	◆第1期事業 建築工事 ◆第2期事業 基本設計	◆第1期事業(完了) 建築工事 ◆第2期事業 実施設計	◆第2期事業 用地取得 整備工事	◆第2期事業 整備工事(完了)				
実績	◆第1期事業 用地取得(約15,000㎡) ※H29.3.27土地売買契約 締結予定	/							
(6) スポーツ観戦機会の充実	② 近隣自治体等との連携	自転車競技大会	商工観光労政課	実施主体	草津市				
				関係団体等	京都府自転車競技連盟、滋賀県自転車競技連盟				
				事業内容	鳥丸半島で開催される「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の自転車競技大会の開催協力を行う。				
				成果	「草津ナイトレース」および「関西シクロクロス」の鳥丸半島での開催協力を行い、本市の観光PRを行った。その結果、大会参加者や観戦者の方々に広く本市の魅力発信を行うことができた。				
				課題	大会参加者や観戦者が、大会開催中の時間以外に市内の周辺施設等を訪れるなど、実際に観光していただけるような仕掛けづくりを行っていく必要がある。				
				評価	3	5: 計画以上にでき、かつ顕著な成果を得た 4: 計画以上にできた 3: 計画どおりできた 2: 計画どおりできなかった 1: 取りこまなかった			
目標	自転車競技大会の開催を通じて、市内外への草津市の魅力等の発信につなげる。								
年度	H28	H29	H30	H31	H32				
区分	継続		継続		継続				
計画	「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の開催協力を進行。	「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の開催協力を進行。	「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の開催協力を進行。	「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の開催協力を進行。	「草津ナイトレース」、「関西シクロクロス」の開催協力を進行。				
実績	草津ナイトレース 7月30日、8月6日 関西シクロクロス 12月25日	/							

草津市スポーツ推進審議会(H29.2.21開催)における主な意見

基本方針1	子どもの体力向上とスポーツ活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・運動が嫌いな子どもには、授業だけではなく、気軽に運動やスポーツに取り組める環境を充実させ、運動を好きになるきっかけづくりとなる機会を多く与えていく必要がある。 ・小学校には、体育を苦手と思う教員もあり、教員自身の資質向上と子どもの体力向上への理解が必要である。 ・草津市が取り組んでいる新たな体力向上プログラムは、草津方式として広げていくべき取り組みである。 ・幼児の段階で運動が楽しいと思う子どもは、小学校入学後も運動をする機会が多いというデータもあり、幼児期における体づくりをキーワードとして取り組んでいくことも重要である。 	
基本方針2	生涯スポーツ活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・県の事業でピワイチが盛りあがっており、草津においても、観光と絡めながら、自転車の取り組みができれば良い。 ・中年層に対する取り組みをどうしていくのかという中で、自転車の取り組みは、中年層に対する取り組みとして期待できる。 ・働いている人は、職場の仲間に誘われてスポーツをされる機会が多いと思うので、企業に対してスポーツ推進を呼びかけていくことも重要である。 	
基本方針3	地域コミュニティによるスポーツ活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブについては、まだまだ認知度が低く会員確保につながっていかない状況にあり、今後、より認知度を高めていくための取り組みを行っていかなければならない。 	
基本方針4	競技スポーツの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・県では、県立高校に種目指定を行うことで、選手、種目の強化を行っており、高校と中学校の連携によるアスリート育成を行うことで成果が期待できる。 ・市町の体育協会の役割は、継続してスポーツをするジュニアを育成し、いかに中学校、高校へとつなげていくかが重要である。 ・スポーツ指導を行いたいと思っている大学生が多くおり、機会があれば大学生の協力も期待できる。 	
基本方針5	スポーツ環境の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活用について、小学校や総合型地域スポーツクラブなど、今後どのように活用し、マネジメントしていくかが重要である。 ・社会体育施設のホームページアクセス数について、早くも目標値を上回った。今後の状況を踏まえて、目標値を新たに設定して取り組んでいくことも検討しても良い。 	

インフルエンザの流行による幼・小・中学校(園)の臨時休業の状況

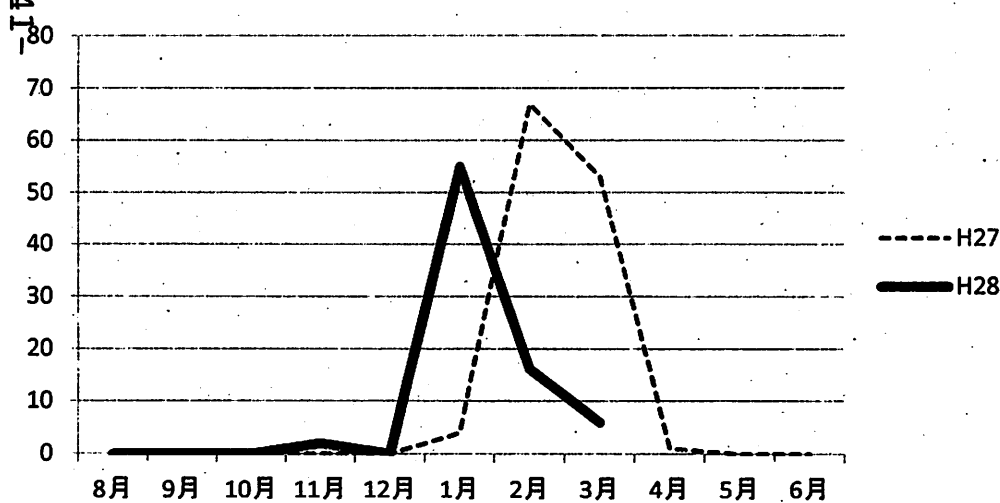
平成29年3月21日現在

病名	年度 月	平成27年度												平成28年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
閉鎖された学級数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	67	53	1	0	0	0	0	0	0	2	0	55	16	6
幼稚園	学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	2
小学校	学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	53	37	0	0	0	0	0	0	0	2	0	24	9	4
中学校	学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	3	0

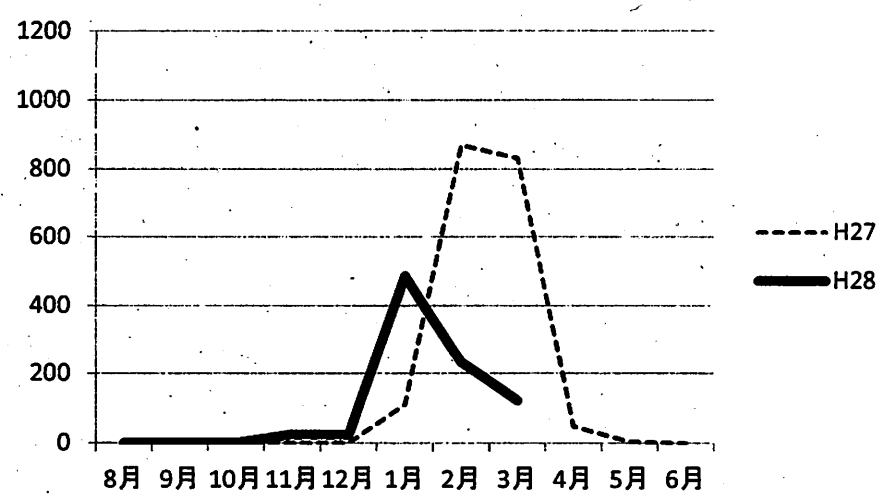
* インフルエンザ様疾患による出席停止報告数

病名	年度 月	平成27年度												平成28年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
インフルエンザ罹患者数		8	4	0	0	0	0	0	1	1	110	869	831	48	4	0	0	0	0	1	25	23	486	232	121
幼稚園	人	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12	39	50	9	0	0	0	0	0	1	4	0	24	12	19
小学校	人	5	1	0	0	0	0	0	0	1	96	697	641	32	1	0	0	0	0	0	20	17	290	164	76
中学校	人	3	1	0	0	0	0	0	0	1	2	133	140	7	3	0	0	0	0	0	1	6	172	56	26

1 インフルエンザによる臨時休業発生状況 (閉鎖した学級数)



インフルエンザ罹患者数(出席停止人数)



※臨時休業の判断基準は20%の欠席を一応の目安に、流行状況や児童生徒の健康状態等を考慮しながら、学校医の指導助言を仰ぎ判断します。
平成27年度は1月から3月の初めにかけて多く発生しました。



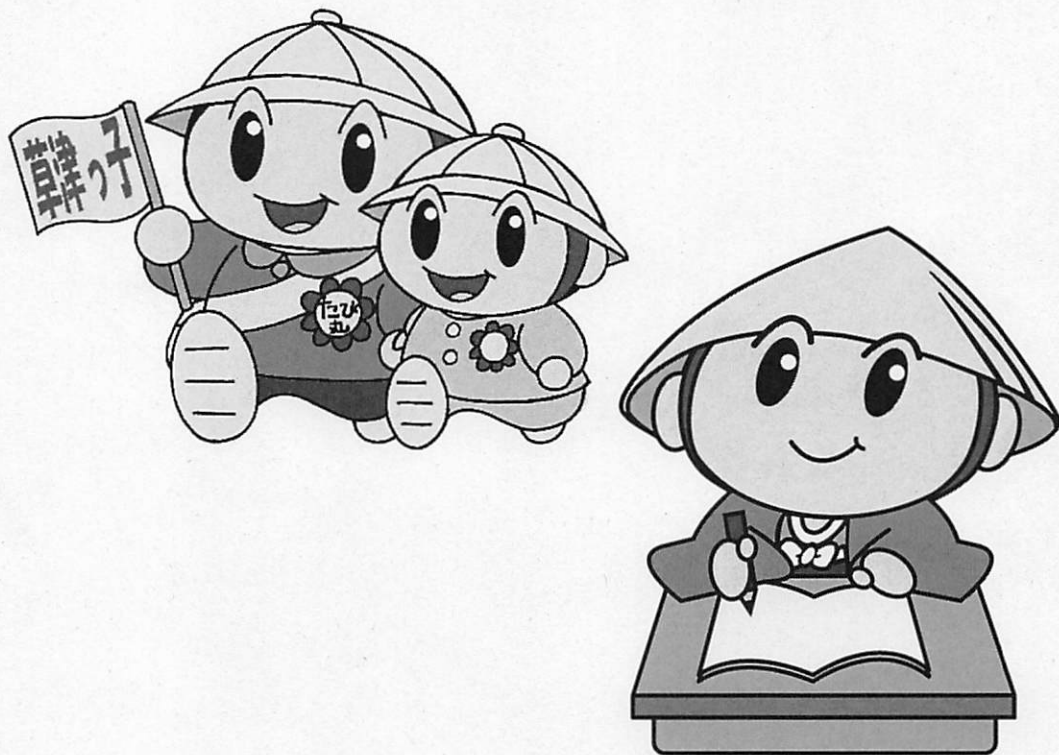
草津市接続期カリキュラムの策定について

別添冊子「草津市接続期カリキュラム」を参照

～豊かな学びが、輝く子どもを育む～

草津市接続期カリキュラム

～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて～



草津市子ども家庭部

草津市教育委員会事務局

2017年3月 策定

目 次

I. 幼児期の教育から小学校の教育へ

1. はじめに

- 学びの芽生えとしての幼児期の教育と児童期の教育

2. それぞれの教育・保育について

- 教育の目標・目的
- 学び方の違いと教育としての連続性

II. 接続期カリキュラムの作成に向けて

1. 接続期カリキュラムとは

2. 接続期の考え方

3. 接続期カリキュラムの目標

4. 接続期カリキュラムの指針

5. 幼児期と児童期を通した学びの基礎力の育成

6. 幼児期と児童期の学びへの配慮事項

- 幼児期
- 児童期

III. 接続期カリキュラム

1. 接続期に育てたい力 (別紙①)

2. 生きる力を育む接続期カリキュラム (別紙②) (アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム)

3. アプローチカリキュラム作成の配慮と工夫のポイント

4. スタートカリキュラム作成の配慮と工夫のポイント

IV. おわりに

I. 幼児期の教育から小学校の教育へ

1. はじめに

■学びの芽生えとしての幼児期の教育と児童期の教育

幼児は直接的、体験的な遊びや生活を通して、まわりの人やもの・ことに興味や関心を抱き、その出会いや触れ合いの中で不思議に感じたり、感動したりしながら、知的好奇心を高めていく。また、「遊びという学びの場」で自分なりに考えたり、工夫したりする楽しさを味わい、自分以外の他者の考えに触れることで、新しい考えを生み出す喜びを感じていくようになる。

幼児期における多様な経験の積み重ねは、教科を中心とした児童期の自覚的な学びの基礎となり、生涯にわたって学び続ける意欲と、まわりの人と共に生活を豊かにしていく態度へとつながっていく。このことから、学びの芽生えである幼児期の教育は、小学校教育の先取りの教育としてではなく、小学校以降の教育の基礎を培うものであるといえる。

幼児期の教育と児童期の教育には、教育課程の構成原理や指導法等の様々な違いがある。その一方で、子ども一人ひとりの発達や学びは、幼児期と児童期とで区別されるものではないことから、幼児期の教育と児童期の教育との連続性・一貫性を保障することが求められている。

2. それぞれの教育・保育への理解

■教育の目標・目的

教育基本法	教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。
保育所 (保育所保育指針)	保育所は、子どもが生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために行われなければならない。
幼稚園 (幼稚園教育要領)	幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。
認定こども園 (幼保連携型認定こども園教育・保育要領)	乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼保連携型認定こども園における教育及び保育は、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含め園児の生活全体が豊かなものとなるように努めなければならない。
小学校 (小学校学習指導要領)	学校においては、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成し、これらに掲げる、目標を達成するよう教育を行うものとする。

■ 学び方の違いと教育としての連続性

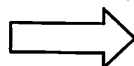
幼稚園・保育所・認定こども園	小学校
<p align="center">【学びの芽生え】</p> <p>「学ぶ」ということを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通して、さまざまなことを学んでいく。</p>	<p align="center">【自覚的な学び】</p> <p>「学ぶ」ということについて意識があり、集中する時間と休息等の区別がつき、与えられた課題を自分のこととして受け止め、計画的に学習を進めることができる。</p>

《学び方》

「遊び」を中心とした総合的な学び

「教科」を中心とした自覚的な学び

遊び



学習

《教育としての連続性・一貫性》

連続性・一貫性

II. 接続期カリキュラムの作成に向けて

1. 接続期カリキュラムとは

近年の幼児の育ちについては、“基本的な生活習慣が身に付いていない” “他者とのかかわりが苦手” “自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない” などの課題が指摘されている。また、小学校1年生などの教室において、“学校生活に適應できない” “話が聞けない” “椅子に座れない” “集団活動ができない” という状況が見られる。これらの原因として、幼児期と児童期には次に提示する3つの段差が生じていると考えられる。

＜生活の段差＞

幼稚園・保育所・認定こども園での生活習慣と、小学校の生活には大きな違いが生じる。主な内容は、施設や環境、時間の区切り、一日の流れ、集団のかかわり等が挙げられる。このため、幼児期の終わりには、教科指導こそ行わないものの、これまでの学びを総合化し、小学校生活に向けて戸惑いを生む要因をなくしていく教育課程の編成・実施が必要である。また、児童期の初期には、学校の時間の間隔や集団行動のきまりを理解・遵守できるような指導を段階的に取り入れつつ、児童が活動に夢中になって取り組む教育課程の編成・実施が必要である。

＜学び方の段差＞

幼児期の教育は、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されている。一方、児童期の教育は、各教科の学習内容を統計的に配列した教育課程に基づいて実施されている。一見すると、まったく別のもののように思えるが、内容のつながりを見ていくと、幼児期の学びが土台となって小学校での教科に沿ったの学びにつながっていくことがわかる。このことを互いに認識したうえで、各々が子どもたちの学ぶ意欲を育てていくことが重要である。

＜指導の段差＞

幼児期の教育においては、学びがどのようにつながっていくのかを見通した指導を、児童期においては、学びがどのように培われてきたのかを理解した上での指導を行うことが重要である。これを、学びをつなぐ指導と考える。その際、どちらかの教育に合わせるのではなく、互いの教育を理解した上でどのような指導を行っていけばよいかを探っていくことで、幼小の段差を滑らかなものにし、幼児期に遊びを通して培った学びの芽生えを、児童期での学習につなげていけると考える。

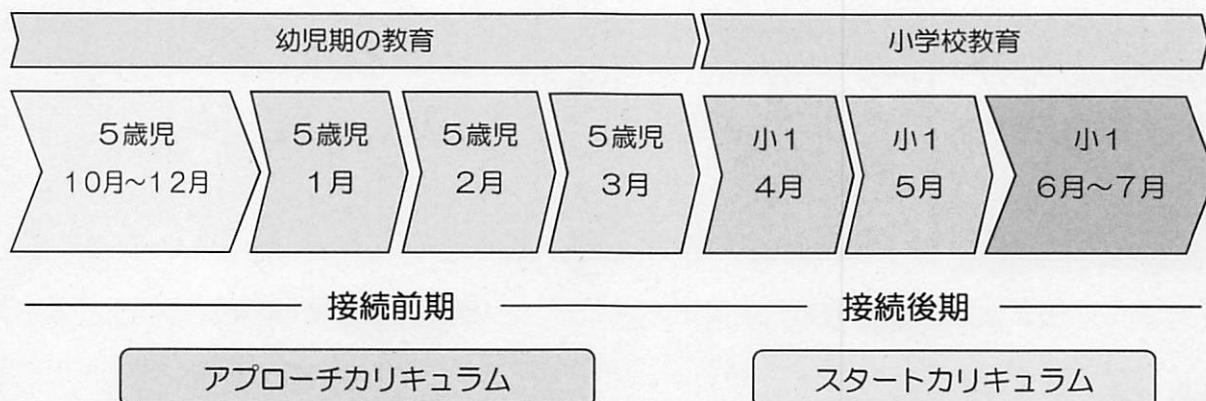
これらの段差を克服するために、双方が互いの特性を理解し合い、スムーズな接続を目指した取り組みが必要である。幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続については、平成20年に示された幼稚園教育要領および小学校学習要領、ならびに保育所保育指針に規定されている。遊びを通して学ぶ幼児期から、教科等の学習を中心とした小学校教育への移行や接続が滑らかになるよう、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携を図ることが求められている。

草津市の子どもの現状としてあげられる課題は、不登校の比率が全国平均に比べて、小学校で高い傾向にあることである。不登校の背景、原因は、さまざまな事柄が複雑に絡み合っているため、安易に理由を特定することは困難である。しかし、一つひとつの事例に着目すると、小学校低学年にあたっては、学校生活への不安や情緒的混乱が多いと考えられる。また、児童期の姿として、人の心に共感できる豊かな感性やコミュニケーション能力にやや弱さが見られる。これらのことから、幼児期から人とのかかわりや自然との触れ合いを通し、集団の中で社会性を培いながら、意欲的に問題を解決する粘り強さや人と協力して困難を克服する実践力等を身に付けていかなければならないと考える。

そこで、草津市では、学びの芽生えである幼児期の教育と小学校以降の教育を豊かにつなげ、草津市の子どもたち一人ひとりが輝くために、等しく質の高い教育・保育が受けられることが求められている。このため、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が互いに知恵を出し合って、教育の連続性や一貫性をもった草津市接続期カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）を作成することにした。

2. 接続期の考え方

本カリキュラムにおいては、「接続期」を、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図る上で特に配慮や工夫が必要と思われる「幼児期の教育の5歳児10月から小学校教育の第1学年7月まで」とする。



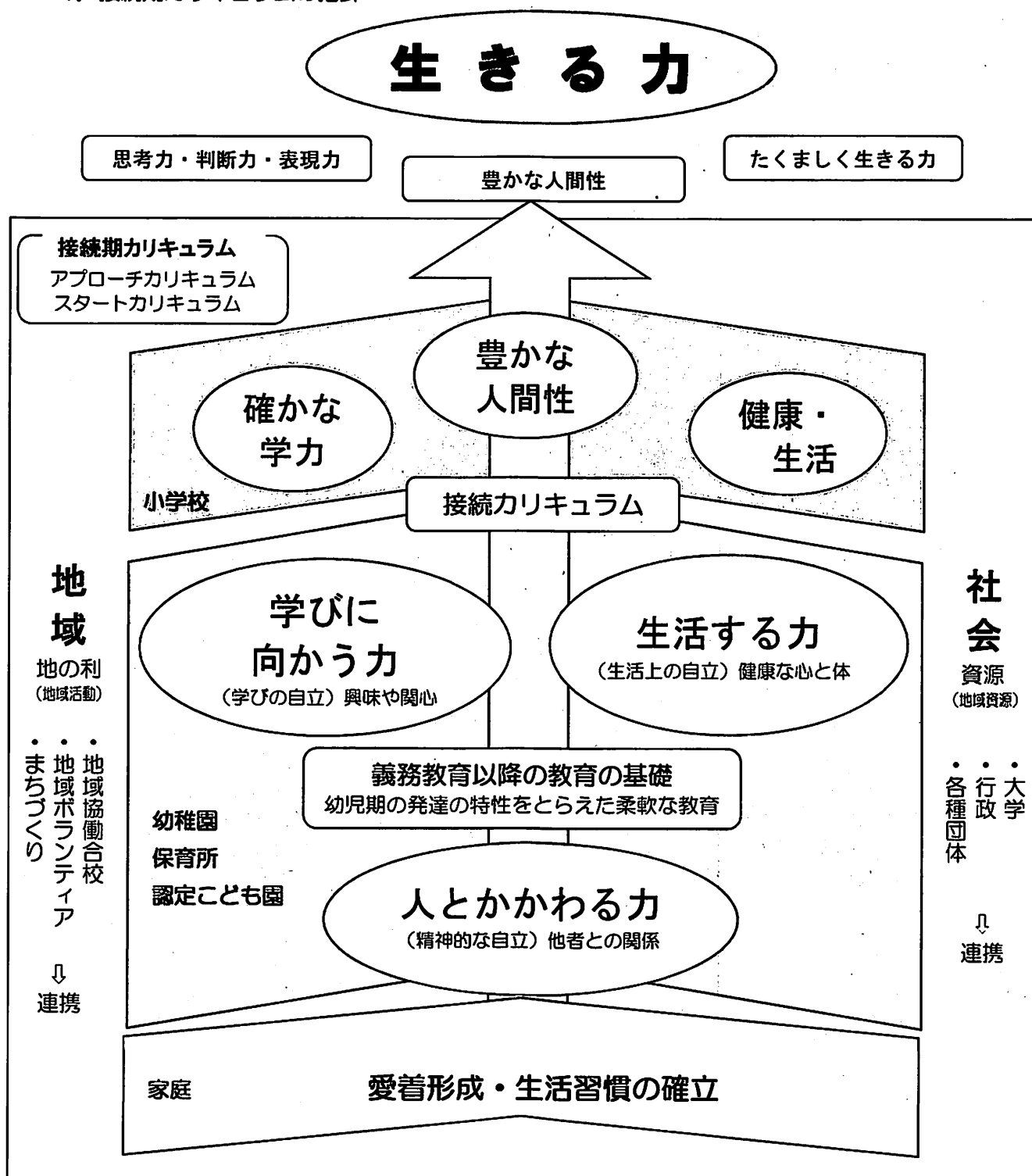
3. 接続期カリキュラムの目標

幼稚園・保育所・認定こども園と小学校のそれぞれの役割や目的を踏まえ、発達と学びの連続性・一貫性のある教育・保育を円滑に行うことを目標とする。

《具体的目標項目》

- ① 幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」でとらえる考え方を示す。
- ② 幼児期と児童期の教育活動を「つながり」でとらえる工夫を示す。
- ③ 幼児期と児童期の接続の取組を進めるための方策（連携・接続の体制づくり等）を示す。

4. 接続期カリキュラムの指針



5. 幼児期と児童期を通した学びの基礎力の育成

幼児期から児童期にかけての教育においては、学びの基礎力の育成を図るため、「三つの自立」（学びの自立・精神的な自立・生活上の自立）を養うことに重点をおくとともに、児童期の教育においては、「学力の三つの要素」を培うことを重視する必要がある。

学びの基礎力の育成のための 「三つの自立」、**「学力の三つの要素」**

幼児期

三つの自立

* 学びに向かう力（学びの自立）

身近な環境に興味・関心を持ち、自分からかかわって考えたり工夫したりする力

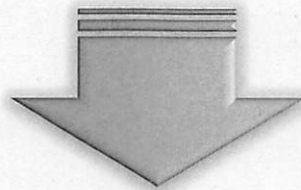
* 人とかかわる力（精神的な自立）

友だちやまわりの人とつながろうとする力

* 生活する力（生活上の自立）

自分たちで生活を進めていこうとする力

幼児期の終わりにおいては、この時期にふさわしい「三つの自立」を培うことを目指すことが求められる。その際、幼児期の「三つの自立」の育成が、児童期の「三つの自立」（幼児期の「三つの自立」と共通）や「学力の三つの要素」の育成につなげていくことを踏まえ、今の学びがどのように育っていくのかを見通すことが重要である。



児童期

三つの要素
学力の

* 基礎的な知識・技能

* 主体的に学習に取り組む態度

* 課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等

児童期（低学年）においては、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことを含め、教育活動全体を通じて「学力の三つの要素」を培うことが求められる。その際、児童期の「三つの自立」や「学力の三つの要素」の育成が、幼児期の「三つの自立」とつながっていることを踏まえ、今の学習がどのように育ってきたのかを見通すことが重要となる。

6. 幼児期と児童期の学びへの配慮事項

■ 幼児期

* 幼児期においては、幼児が遊びや生活の課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いを付けたりしながら、クラスやグループのみんなで達成感をもってやり遂げられるようにしていくことが大切である。そのため、保育者は幼児の興味・関心や生活、協同性の育ちを踏まえた指導計画の下でねらいをもって指導に取り組むことが必要である。また、幼児が思い通りにならないという経験を通して、自他の立場が違うこと、他者も自分と同じようにそれぞれの意志や欲求、感情をもっていることに気付けるように働きかけることも大切となってくる。

* 人やものとのかかわりを深める言葉や表現は、学習を進める上でも重要である。したがって、言葉や表現は、学びの基礎力が育まれる中で発達していくことを踏まえ、友だちや保育者・保護者とのやり取りを通して気付きや思考を深めていけるようにする。

■ 児童期

* 児童期においては、児童が与えられた課題について友だちと助け合いながら、自分が果たすべき役割をしっかりと果たせるようにすることが大切である。そのため、教員は幼児期における人とのかかわりの指導の状況や実際の子どもの発達や学びの状況を把握した上で、学校教育活動を計画的に進めることが必要である。その際、幼児期の教育の方法を取り入れていくことも有効だと考えられる。

* 各小学校では、入学時に幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムが生活科などを中心に進められており、その進行にあたっては、小学校低学年の教育課程全体を視野に入れて行われることが重要である。

Ⅲ. 接続期カリキュラム

1. 接続期に育てたい力（別紙①）
2. 生きる力を育む接続期カリキュラム（別紙②）
（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）
3. アプローチカリキュラム作成の配慮と工夫のポイント

アプローチカリキュラムでは、小学校以降の学びに対して見通しをもつことが大切である。今の学びがどのような学びにつながるのか、小学校以降で育成する「学力」について理解し、学びの連続性・一貫性を図るようになっていくことが必要となる。幼稚園・保育所・認定こども園はそれぞれの園所によって保育活動が違う。どの園所でも育てていく「学びの基礎力の育成」と、連続性・一貫性をふまえたアプローチカリキュラムの視点を「共通に目指すもの」ととらえ、その具体化に向けた活動は、それぞれの園所の保育活動の中で行っていく。具現化のための保育活動は一律ではない。よって、「草津市就学前教育・保育カリキュラム」を基に、各園所の実態に応じて小学校に入学するまでの教育・保育を見直し、アプローチカリキュラムを整備することが望まれる。新しくゼロから始めるのではなく、これまで行ってきた教育・保

育を、円滑な接続を見通した視点で見直してることが大切である。

■アプローチカリキュラム作成例（参考）

5歳児 1～3月			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを友だちと一緒に進める楽しさを味わいながら、いろいろな友だちの良さを受け入れたり、認めたりしている。 目当てをもって、あきらめずに、取り組もうとする姿がみられる。 友だち同士、励まし合う姿が多くなる。 生活発表会やお別れ会等学級全体として取り組む中で、みんなと力を合わせてやり遂げる喜びを味わい、学級としての集団意識が高まる。 就学の話題が増え、期待が膨らむとともに、不安を示す子どももいる。 		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力し合って活動を進める。 わからないことや困ったことがあった時には、自分の言葉で相手に伝えようとする。 自分たちでやり遂げた喜びを味わう。 見通しや自信をもって、生活や遊びを進める。 やってみたい、こうしてみようなどという探究心や好奇心を積極的に物事にかかわろうとする気持ちをもつ。 様々な人のかかわりを通して、感謝の気持ちをもつ。 小学校入学への期待をもちながら、園生活最後の時期を充実させる。 		
	学びに向かう力	人とかかわる力	生活する力
内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、文字や数字に興味をもって使おうとする。 状況に応じた挨拶を進んでする。 （「はい」「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」など） よく聞いて、よく聞いていいことと悪いことを自分で判断し行動し、考えを人に伝えたり、相手の話を最後まで聞いたりする。 		
環境構成 保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 片付けや食べ終わる時刻を事前に知らせ、時間を意識しながら行動できるようにする。 片付けや身支度ができたか、自分で確認をするように促す。 マラソンや縄跳びなど、朝、戸外で遊ぶ時間を確保し、継続できるようにする。 		
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 早寝、早起き、排泄など規則正しい生活リズムを身に付けさせる。 自分の身の回りの始末や準備など、自分のこと（ポケットにハンカチを入れる・自分の荷物は自分で持つ）をできるようにする。 登降園時、歩くことに慣れるよう呼びかけたり、歩くように促す。 		

幼児の姿
幼児の発達や学びをつなげていくためには、まずは個人差を考慮しながら、幼児の発達の状況を把握しておくことが必要。

ねらい
この時期に育てたい子どもの姿から子どもの発達特性を鑑み、小学校以降の学びおよび生涯にわたる「生きる力」の育成をとらえて示す。

内容
ゼロから新しく考えるのではなく、これまでの保育活動から、ねらいに即しているか、「生きる力の基礎」からの三つの視点を引き出せる内容であるかを考えて明記する。

環境構成・保育者の援助
接続期を意識した環境構成・教師の援助を明記しておくことで、小学校教育においてもつながりのある指導や授業の構成を考えることができる。

家庭との連携
円滑な接続のためには、保護者の理解と協力が不可欠である。保護者が小学校入学に向けて安心できるような支援を考えていくことが子どもの安心感につながる。

様式は各園所でそれぞれ作成可能であり、接続前期（アプローチカリキュラム）において、3ヶ月単位で作成する場合や、月ごとに作成する場合があってもよい。また、項目には上記の他に『主な活動』『小学校との連携』『保幼小交流』等があってもよい。大切なのは、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が集まって意見交換や情報交換の機会を作り、各園所で行われている遊び（生活）の中にある、小学校の学びにつながる力を明らかにすることである。

4. スタートカリキュラム作成の配慮と工夫のポイント

スタートカリキュラムとは、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を大切にしたい、第1学年入学当初のカリキュラムのことである。入学したばかりの1年生が「学校って楽しいな」という思いを持てるようカリキュラムを工夫し、学校生活に対する安心感と意欲をもてるようにすることと、幼児期の教育から各教科等の学習への円滑な接続を目指す。そのためには、小学校低学年が「学びの基礎力の育成」の時期であることをしっかりと踏まえながら、遊びを通して総合的に学ぶ幼児期の教育を十分に理解するとともに、子どもの発達の特長や、アプローチカリキュラムのねらい・そこで培われてきた力を理解し、育ちと学びの連続性・一貫性を図るようにしていくことが大切である。

■スタートカリキュラム作成例（参考）

1年生 4月第1週目					
月日	4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)	4月13日(金)
ねらい	【 がっこう だいすき! 「はじめまして、がっこう」 】 ○学校生活で必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、小学校生活を楽しく過ごす				
朝の会	ねらい ○○タイム「(例) わくわくタイム」、あいさつ、健康観察				
1校時	個から集団へ、教室から学校全体へ等、徐々にステップアップしていくねらいを定めることが必要。	び・ダンス (1H) なかよし	みんなであたおう 音楽 (0.5H) うたでさんぽ 書写 (1H) しせいとせ	コミュニケーションゲーム等 体育 (1H)	読み聞かせ等 行事 (1H) こんにちはねんせいのかい
2校時	行事 (1H) にゅうがくしき	学級活動 (0.5H) トイレのつかいかた	生活 (0.5H) みんななかよし	図工 (1H) どんどんかくのはたのしいな	生活 (1H) みんななかよし
3校時	学級活動 (1H) いちねんせいになって	図工 (1H) たのしいな おもしろいな	道徳 (1H) わたしのがっこう	算数 (0.5H) なかよし	算数 (0.5H) なかよし 国語 (0.5H) さあはじめよう
4校時	学習活動 入学当初は複数の教科を組み合わせさせて学習活動を展開する。その際、幼児期の活動を活かした緩やかな接続を心がけることが必要。		学年下校 ・安全な登下校の仕方を学ぶ ・安全を守ってくれる人へのあいさつの仕方を学ぶ	生きる力 スタートカリキュラムで大切にしたい視点を踏まえ、個々の発達に応じた「生きる力」を明記する。	
5校時					
生きる力	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 「教科書」「ノート」という言葉を覚え、見開きページを押さえて見やすくすることや、下敷きを敷いて書くこと等を知る。 必要な場面での、椅子の座り方・立ち方・挙手の仕方・発表の仕方などを知る。 			
	豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> 初めて出会う友だちの名前を知り、触れ合う中で安心感をもつ。 友だちや教師に挨拶をする。 			
	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ポケットにハンカチ、ティッシュを入れて生活することを知る。 トイレの使い方を知り、次の人のことを考えて使用する。 給食の準備や片付けの仕方を知り、楽しく食べる。 			
環境構成	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの不安を取り除くために、健康観察や登下校時に一言かける等、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめ 			
連携	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や学級だよりなどで一日の様子を伝え、安心できるように配慮する 健康状態など、子どもの変化には十分配慮し、家庭との連携を密に図る 			

様式は各学校でそれぞれ作成可能であり、接続後期（スタートカリキュラム）において、長期スパンで考えるものや、週単位で考えるものがある。また、項目には上記の他に『主な行事』『掲示物』『保幼小交流』等がある。大切なのは、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が集まって意見交換や情報交換の機会を作り、幼児期の教育を活かした指導方法と生活に即した学びの環境を明らかにすることである。

IV. おわりに

幼児期と児童期の接続を積極的に進めるためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」ととらえる考え方を普及させる必要がある。そして、教育内容の接続を図るカリキュラムを構成・実施して、幼児・児童の生活と学びの段差を滑らかにしていくことが必要である。また、教育委員会事務局や子ども家庭部はあらかじめ連携・接続に関する基本方針や支援の方策を策定し、各学校・施設はそれらを踏まえて連携や接続のための取組を進めることが望ましい。今回作成した「草津市接続期カリキュラム」は、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が相互理解を深め、就学前後の子どもや保護者の不安を解消する手立てになることを願いたい。

家庭教育

愛着の形成

基本的な生活習慣

幼児期の教育

・5領域を総合的に学んでいく教育課程等
・身の回りの「人・もの・こと」が教材
・子どもの生活リズムに合わせた一日の流れ
・総合的に学んでいくための工夫された環境構成

「遊び」を中心とした総合的な学び

学びに向かう力

身近な環境に興味・関心を持ち、自分なりにかかわって考えたり工夫したりする力

*学びに向かう力（学びの自立）

- ・生活や遊びの中で、さまざまなものに興味や関心を持ち、積極的にかかわろうとする
- ・身近な自然に触れて、不思議に感じたり、感動したりしながら科学的なものの見方や考え方ができるようになる
- ・さまざまな活動の中で、文字や数量に触れる
- ・分からないことはたずねる

友だちやまわりの人とつながっていこうとする力

*人とかかわる力（精神的な自立）

- ・友だちと共に遊んだり、生活したりする充実感を味わう
- ・自分の気持ちを話したり、相手の意見を聞いたりして、互いの気持ちを理解し合おうとしたり、共感したりする
- ・友だちと共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた充実感を味わう

自分たちで生活を進めていこうとする力

*生活する力（生活上の自立）

- ・進んで体を動かし、ルールのある遊びを楽しむ
- ・生活に必要な技能や態度を身に付ける
- ・よろこんで聞いたり話したりする
- ・生活に必要なことは、自分でする
- ・物事を最後までやりとげようとする
- ・よいこと悪いことを判断し、きまりの大切さに気づき、気持ちをコントロールする

人とかかわる力

生活する力

小学校教育

・各教科の学習内容を系統的に学ぶ教育課程等
・教科書が主たる教材
・時間割に沿った一日の流れ
・系統的に学ぶための工夫された学習環境

「教科」を中心とした自覚的な学び

確かな学力

基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる

豊かな人間性

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を育てる

健康・生活

たくましく生きるための健康な心と体や、生活する力を育てる

生きる力

寄付受け入れ報告

寄付品目	数量	単価円	価格円	住所・氏名等	寄付年月日	受納場所
ホカット(暖房器具)	1	180,000	180,000	草津市新堂町111番地	H29年	新堂中学校
朝礼台	1	158,000	158,000	新堂中学校卒業生一同 代表 横江 かおり	3月14日	
小計			338,000			
ワンタッチテント	12	21,060	252,720	草津市草津二丁目16-8 草津中学校PTA 会長 鍛示 智樹	H29年 2月21日	草津中学校
小計			252,720			
美術机	3	99,990	299,970	大津市浜町1番38号 ㈱滋賀銀行 CSR私募債(㈱ゼンシヨク)	H29年 3月15日	草津中学校
小計			299,970			
グロッケン	1	60,000	60,000	草津市野路町517 老上小学校PTA 亀田 美幸	H29年 2月21日	老上小学校
小計			60,000			
折りたたみイス	97	-	268,000	草津市追分7丁目6-1 高穂中学校3年生PTA 学年部長 西村 真由美	H29年 3月14日	高穂中学校
小計			268,000			
米(コシヒカリ)[300kg]	1	100,000	100,000	草津市の農業を支える 担い手農家有志	H28年 12月22日	市内幼稚園 ・認定こども園 (10園)
小計			100,000			

寄付品目	数量	単価円	価格円	住所・氏名等	寄付年月日	受納場所
竹馬	3	5,000	15,000	草津市志那中町278 常盤幼稚園PTA 会長 曾根 沙織	H29年 2月13日	常盤幼稚園
小計			15,000	/		
竹馬	3	5,000	15,000	草津市志那中町111-1	H29年	常盤幼稚園
なわとびポールスタンド	1	25,000	25,000	人と地域が輝く常盤協議会 会長 島林 一郎	2月13日	
小計			40,000	/		
折りたたみリヤカー	1	98,060	98,060	草津市青地町845 志津幼稚園PTA 会長 森島 裕美子	H29年 2月28日	志津幼稚園
小計			98,060	/		
木琴	2	28,000	56,000	草津市上笠1丁目6-1	H29年	笠縫幼稚園
デジタルカメラ	4	11,000	44,000	笠縫幼稚園PTA 会長 前田 與志子	3月4日	
小計			100,000	/		
シンバル	1	32,000	32,000	草津市上笠1丁目18-33	H29年	笠縫幼稚園
シンバルスタンド	1	10,000	10,000	笠縫学区自治連合会	3月4日	
逆上がり補助器	1	32,000	32,000	会長 松村 幸子		
小計			74,000	/		
絵本(セット)	3	6,850	20,550	草津市大路2丁目11-51 大路幼稚園PTA 代表 小西 紀代	H29年 3月15日	大路幼稚園
小計			20,550	/		

寄付品目	数量	単価円	価格円	住所・氏名等	寄付年月日	受納場所
絵本一式	1	73,956	73,956	草津市東草津四丁目701 特定非営利活動法人草津の 安全・福祉・災害救援活動を 推進する市内業者会	H29年 3月15日	市内幼稚園 ・認定こども園 (10園)
小計			73,956	理事長 森川 守		
デジタルカメラ	2	15,000	30,000	草津市南山田町672-2	H29年	山田幼稚園
ハンディクリーナー	1	15,000	15,000	山田幼稚園PTA	2月21日	
平均棒	2	25,000	50,000	会長 松本 美世		
小計			95,000			
合計			1,835,256	/		